公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年11月1日発行（毎月1回1日発行）通巻563号

ハンドボール

11
Nov. 2016 No. 563

特集
第7回男子ユースアジア選手権
第45回全国中学校大会



【表紙写真】第45回全国中学校大会、男子優勝・氷見北部中の坂直哉選手（左）、女子優勝・松橋中の松永愛加選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

基本的な運営方針の３本柱



公益財団法人 日本ハンドボール協会 副会長 兼 専務理事　蒲生 晴明

6月26日に副会長兼専務理事を拝命し、大学に在籍出向という形で8月に東京に居を移し、8月中旬から事務局に常勤でハンドボールの仕事をしております。去る、9月11日は臨時理事会が開催され、その席上でご提案申し上げた今後の「基本的な運営方針」についてのご承認をいただきました。

基本的運営方針は、3本の大きな柱から構成されています。

①2019年熊本世界女子選手権、2020年東京オリンピックの強化～メダルにチャレンジ

リオデジャネイロ・オリンピックで、日本は28種目中27種目に出場、出場できなかった唯一の団体がハンドボールだったわけですが、その悔しさの半面、どの団体よりも早く2020年の東京オリンピックに向けた強化策を打ち出すことができています。すでに2020年までの強化スケジュールを作成していますので、これから大半の日本代表選手を送り出してくれる日本リーグ加盟各チームと方針を共有・連携してまいります。

具体的な強化のために、ヨーロッパを拠点として長期にわたる強化活動を行う準備を進めています。今シーズンからは男女ともに日本リーグにヨーロッパからの選手が加わりました。この動きがさらに活発化するとともに、日本人選手がヨーロッパの国々でプレーするという、いっそうの国際化が実現できれば、日本代表チームがヨーロッパに出向かなくても強化ができるという可能性も出てきます。国内の日本代表合宿に、ヨーロッパの選手を招き、いつでもワールドクラスの選手とトレーニングできる環境を作ったり、日本リーグチームがヨーロッパからコーチを招くといった方法もあるでしょう。

このような発想を具体化するため、日本協会、日本リーグが強化方針で協力連携するための「強化連絡ボード」を設置しました。

②日本協会の改革～事業執行の透明化と確実な決済

日本協会の改革については、財務・会計、マーケティング、広報、ホームページなど、多数のセクションでワーキンググループを作り、各セクションに弁護士、会計士、コンサルタント、マーケティングなどの専門家を招聘し改革を進めていきます。

事務局のスタッフのみなさんも、現状の報告と問題点をかなり詳しく出してくれています。4月－9月期の実績をまとめ、年間予算に対して10－3月期の使い道を検討するといった流れで、公益財団法人たる透明性を実現させていきます。同時に、でき得るかぎりの助成金も申請してまいりますが、将来的に助成金、補助金に依存しなくてもよい体質作りを目指していくことに変わりはありません。

③将来構想～ 2020年以降の自立運営レガシー確立

将来構想として、日本協会ドリーム構想も策定中です。競技人口の目標設定など、具体的な内容はこれからになりますが、その構想が2020年以降にもつながっていきます。未来に向けた新しい動きが随所でスタートしているのです。

ハンドボールをしている子どもたちに「オリンピックに出たい人？」と聞くと、みんなが手を上げてくれます。そこからは大人の役割。システムを構築し、子どもたちに「オリンピックで金メダルを獲得するんだ」と言ってもらえるような体制作りに取り組みます。スポーツをやっている限り、その頂点はずばり、オリンピックや世界選手権での金メダルです。子どもたちが夢を持って、頂点にチャレンジできる道筋を作るのが、私たちの役目だと思っています。

本年6月の世界学生選手権では、男子が4位とメダル獲得に近づきました。2011年の世界男子選手権でも、ヨーロッパ予選でロシアを破って出場のオーストリアを破っています。女子も2011年、13年の世界女子選手権で、デンマークやセルビア、ブラジルなど、世界トップクラスの強豪と、僅差のゲームを続けています。

日本代表チームには、ポテンシャルがあるのです。その子どもたちの夢を育みながら、各カテゴリーの指導者のみなさんとともに歩んで行きたいと思っています。

私は、ハンドボール界のために全力を注ぐことをお約束するとともに、私たちに続く人材確保、育成にも力を注ぎたいと思います。ハンドボール界の未来にために「お金を使う」のではなく「お金を生む」組織に生まれ変わることが不可欠と考えています。

日本代表チームは私達のチームです。ハンドボールにかかわる全員で支えて頂くようによろしくお願い致します。

第7回 男子ユース アジア選手権

7th Asian Men's Youth Handball Championship

大会期間：2016年8月27日(土)ー9月5日(月)
開催都市：バーレーン・マナーマ

【最終順位】

優勝：バーレーン
2位：日本
3位：韓国
4位：カタール
5位：サウジアラビア
6位：イラク
7位：ウズベキスタン
8位：中国
9位：香港

選手団名簿

役職	氏名	所属	
団長	志々場修二	(公財)日本ハンドボール協会	北陸高等学校
監督	所　努	(公財)日本ハンドボール協会	岡山県立総社高等学校
コーチ	古家雅之	(公財)日本ハンドボール協会	和歌山県教育庁
コーチ	荻田圭	(公財)日本ハンドボール協会	秋田県立湯沢高等学校
トレーナー	飯田純一郎	(公財)日本ハンドボール協会	株式会社J・フロントライン
ドクター	大西信三	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学附属病院
情報分析	横山克人	(公財)日本ハンドボール協会	東海大学大学院

背番号	氏名	所属	出身校
1	高光　凌	国士舘大学	下松工業高校
2	高野颯太	浦和学院高校	府中第四中学校
3	浅川律樹	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学付属中学校
4	阿部奎太	国士舘大学	学法石川高校
5	部井久アダム勇樹	博多高校	多々良中央中学校
6	服部將成	春日丘高校	笹島中学校
7	徳田廉之介	岩国工業高校	平田中学校
8	藤川翔大	岩国工業高校	岩国中学校
9	村木幸輝	総社高校	総社西中学校
10	山田翔騎	大分高校	大分中学校
11	藤田龍雅	法政二高校	東久留米西中学校
12	堀田陽大	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学付属中学校
13	矢野世人	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学付属中学校
14	助安大成	岩国工業高校	平田中学校
15	若狭圭悟	総社高校	操南中学校
17	狩野優太	浦和学院高校	田島中学校





第７回男子ユースアジア選手権大会報告

U19 男子ユース日本代表監督　所　努

はじめに、第７回ユースアジア選手権参加にあたり、多大なるご支援をいただきました日本ハンドボール協会の皆さまをはじめ、選手・スタッフを快く派遣していただいた所属の皆様、大会直前にチームの練習相手並びに宿泊を快く受けていただいた大崎電気工業の皆さまに感謝申し上げます。さらに、バーレーン日本大使館の朝子大使をはじめ、在留邦人会の皆さまに温かいご声援をいただきましたことに対し、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会直前に大崎電気工業の皆さまのご支援をいただき、8月 22 日から 24 日まで強化合宿を行いました。国内合宿は３回目でありましたが、日本リーグのトップチームの胸を借りて中東対策として、体格が大きくスピードのある選手と練習を行うことでユースアジア選手権に良い状態で臨むことができました。岩本監督を始め、大崎電気工業の皆様には、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

現地到着後、志々場団長と共に日本大使館を訪問し、朝子大使にご挨拶をさせていただきました。大使から今年１月のアジア選手権の際、観戦に訪れた在留邦人が日本代表チームのエキサイティングな試合を観戦し、選手たちと交流を深めたため、ハンドボール人気が非常に高く毎試合たくさんの邦人が応援に駆けつけるはずだと教えていただきました。現地に到着して数時間の間に、今大会での我々ユースチームへの期待と結果を残さなければならないという重責に身の引き締まる思いで緊張感が一気に高まりました。その後、午後から時差調整も兼ねてトレーニングを行い、初戦のサウジアラビア戦に向けて準備を行いました。

私は初戦のサウジアラビア戦が今大会のポイントとなる試合だと考えていました。中東勢との試合は、私自身経験したことがなく、内記前監督から映像資料を提供していただき研究をしました。準備してきたハードにコンタクトする DF とスペースを作り強い１対１を起点に勝負する OF が機能すれば、勝機は十分にあると考えていました。ポイントとなる初戦において、選手たちが全く物怖じせず果敢にプレーしてくれた事もあり、開始７分で７対１と日本が主導権を奪いました。特に、RW 藤田選手が日本の OF をリードし、９得点の大活躍で日本に勢いをもたらしてくれました。DF 面においては、体格を生かしたサウジアラビアの OF に中盤から押し込まれ、相手に 7mT を 11 本与え、退場回数も５回と中東の力強い１対１への対応とボールをライン際でつないでくるプレーに対して課題が出た試合でした。しかし、初戦を 28 対 24 で勝利できたことは、ユース日本代表に自信と勢いをもたらしたと思います。

第２戦のイラク戦は、前日とは違い開始早々、イラクに３連打を許し追いかける展開となりました。LB 阿部、部井久のミドルで対抗し、徐々にリズムをつかみ前半は 12 対 15



で折り返しました。少し歯車がかみ合っていない選手たちに、ハーフタイム中にやるべき事の徹底と代表選手である自覚について厳しく檄を飛ばしました。後半は、古家コーチの的確な OF 戦術と荻田コーチの GK 指導が的中し、後半開始 10 分で 20 対 18 と２点リードを奪いました。その後も、リードを広げ、27 対 22 と逆転勝利となりました。

第３戦は香港と対戦、この試合は立ち上がりの 10 分に集中し、DF を強調して意識を持たせました。GK 堀田を中心に堅守速攻で 12 分に９対１とリードし、完全に主導権を握りました。メンバーを交代させながら、ゆとりを持って戦えた１戦でした。ベンチメンバーも全員出場することができたうえに、一人一人が役割を果たすことができた結果、27 対 15 で開幕３連勝、グループ２位以上を確保しセミファイナル進出が決定しました。

予選リーグの最終戦は、地元バーレーンとの対戦でした。一人一人の能力が高く、果敢にゴールを狙ってくる攻撃型のチームに対し、準備してきた DF をしっかりやることを確認し、試合に臨みました。ゲームの序盤は、これまで絶好調の GK 堀田がチームのピンチを再三救い、攻撃ではコンディションが悪かった RB 徳田が、飯田トレーナーの献身的な治療の甲斐もあり回復し、本来の動きを取り戻して 10 得点の活躍、チームに勢いをもたらしました。前半同点で折り返し、後半は RB 徳田にボールを集め、後半 15 分に 20 対 15 と最大リードを奪いました。ここから、相手のしつこい１対１の OF を辛抱強く守りましたが、パッシブプレーの笛がなかなか鳴らないなど、不可解なジャッジも重なりリズムを崩してしまいました。さらに、相手の３：３DF にも足が止まり消極的なプレーでミスから得点を許し、完全に相手に流れを奪われ逆転を許してしまいました。２度のタイムアウトで流れを変えようとしましたが、同点に追いつくのがやっとで 23 対 23 で引き分けに終わり、得失点差により予選グループ２位となり、セミファイナルで宿敵韓国と対戦することになりました。

セミファイナルの韓国戦に向けて、アナリストの横山さ



んに映像分析資料を作成していただき、古家コーチ、荻田GKコーチと入念にスタッフミーティングを行いました。相手DFに対しての打開ポイントを研究し、試合前の練習において古家コーチから丁寧にわかりやすく選手に指導をしていただきました。韓国戦は、序盤から激しい主導権の奪い合いでした。日本は、LB阿倍・GK堀田の活躍もあり、17対14と３点リードで折り返すことができました。相手の高いDFに対してPV高野が効果的にスクリーンをかけ、バックプレーヤーのスペースを作り出し、ボールと人が動く準備してきたOFが機能しました。さらに、シュートの精度が66.7％と決定率が非常に高かったことがこの試合に勝てた要因だと考えます。後半に入り、韓国も切れのある１対１でDFを突破し、再三日本ゴールへシュートを打ち込みましたが、GK堀田のファインセーブによって韓国の失点を最小限に抑えたことも特筆する点です。また、キャプテン村木を中心に選手たちが韓国に物怖じせず、逞しく戦ってくれたことに驚きと感動を同時に覚えました。韓国戦は、まさしく１点を争う激闘となりましたが、選手・スタッフ、そして会場に足を運んでくださる在留邦人の気持ちが一つとなり、30対29で歴史的勝利を収めることができました。この結果、決勝進出と共に３大会連続世界選手権出場権を獲得することができました。

決勝は、予選で引き分けたバーレーンとの再戦でした。日本は、韓国戦好調であったLB阿部、RB徳田、CB村木、PV高野、LW矢野、RW藤田、GK堀田の布陣でスタートしました。今大会、セーブ率35％以上の成績を維持し、絶好調の堀田の好セーブにより、日本リードで試合は展開しました。前半は、日本３点リードで折り返しました。しかし、後半に入り、地元の応援に後押しされ日本に対し圧力を上げてきたバーレーンに、少しずつ劣勢となり前半10分過ぎには逆転を許してしまいました。GK堀田の再三の好セーブもむなしく、相手の勢いに完全に飲み込まれる形となり２点差で惜敗。終始、アウェイの中で、キャプテン村木を中心に集中し、勝利にこだわってプレーしてくれた選手たちを誇りに思うと同時に、勝負所でのシュートミスやDFの連携ミスが悔やまれる課題が明確になったゲームでした。

今大会参加にあたり、世界選手権への切符獲得を目標に戦ってきた我々にとって、チームの目標達成と同時に宿敵韓国に勝利できたという自信を得たことは、選手のみならず、スタッフにとっても大きな財産となりました。このような結果を残すことができたのも、志々場団長の愛情溢れる激励と古家コーチ、荻田GKコーチ、飯田トレーナーの選手たちに勇気を与え、勝利にこだわる姿勢を徹底的に指導してくださったお陰だと感謝しております。また、情報分析で帯同してくださった横山さんとドクターでありながらビデオ・写真撮影や通訳に至る所までチームのために積極的に仕事をしてくださった大西ドクターのチームを思い、選手のために献身的にサポートしてくださった事に対し感謝しております。このように、スタッフの一人一人のサポートに支えられ、初めてのアジアユースにおいて世界選手権への切符を手にする事ができたと思っております。ありがとうございました。

最後になりましたが、ユース日本代表チームに対しご尽力いただきました日本協会関係の方々、応援いただいた方々、選手を派遣していただいた所属の皆様に改めてお礼申し上げ大会報告とさせていただきます。ありがとうございました。



第７回男子ユースアジア選手権を終えて

U19男子ユース日本代表主将　**村木 幸輝**

私たちU-19チームは８月24日から９月５日までバーレーンで開催されたユースアジア選手権に出場しました。

８月22日から大崎電気工業様に練習会場や宿泊施設をお借りして事前合宿を行い、練習や練習試合でプレーの合わせや確認をして大会に臨みました。バーレーンに到着して時差や食事、周囲の環境の変化で体調を崩す選手もおらず、万全の体制で初戦のサウジアラビア戦に挑むことができました。

サウジアラビア戦では、現地に住まれている日本人の方々が応援に駆けつけてくださり、応援に後押しされるように試合開始から良いスタートがきれ前半７分には７対１とリード



し日本がゲームの主導権を握る展開となり、28 対 24 で白星スタートができました。

初戦から中東勢との試合で相手のフィジカルの強さや、日本のハンドボールが相手にしっかり通用するという自信を得ることができる良い試合となりました。

続く 2 試合目はイラクとの試合でした。初戦とうって変わり、前半 8 分には 1 対 6 と序盤から相手を追う展開となりましたが、徐々に点差を詰めて前半は 3 点のビハインドで終わりました。ハーフタイムに後半からチームで徹底することや DF の確認をして臨んだ後半は、日本のペースで試合を進めて 27 対 22 で逆転勝利をおさめることができました。

イラク戦の次の日は大会のレストデイがあり、その日を利用してバーレーンにある日本人学校や日本大使館の方の官邸に訪問させていただき、子供たちと交流したり日本食を振る舞っていただいたりして、とても応援していただいていることを再確認し結果で恩返ししようと思いました。

リーグ 3 試合目の香港戦では、序盤から日本がペースで試合を進めてユースメンバーの全員が試合に出場でき 27 対 15 で勝利しました。

リーグ戦ラストのバーレーン戦では、得失点差の関係により引き分け以下で 2 位になることを確認し、必ず勝って 1 位通過しようとチームで目標を決めて試合に臨みました。序盤から一進一退の攻防が続きました。中盤から日本が 3 連取で、10 対 8 とリードする展開となりましたが、前半終了間際に相手センタープレーヤーの 2 連続得点で追いつかれ前半を終えました。後半は日本のリズムで試合を運び最大 5 点のリードを奪いましたが、OF でのテクニカルミスが続き連取され、逆転を許してしまい苦しい展開となりました。しかし、守護神 堀田のファインセーブやエース徳田の個人技等で追いつき 23 対 23 の同点で試合終了となりました。

この試合で同点になり 2 位通過となってしまったので、次戦は B リーグ 1 位の宿敵韓国との試合になりました。

2 日後に行われる韓国戦に向けてチームミーティングや選手ミーティングを重ねて、自分たちの徹底することやサインプレーの確認などの準備を整えて韓国戦に挑みました。

韓国戦では、ミーティングで確認したことを序盤から徹底し、応援団の大声援に後押しされるようにキーパー堀田の再三にわたるファインセーブがあり、それに応えるようにコートプレーヤー陣も着実に得点を重ねて、前半は 17 対 14 の 3 点リードで折り返すことができました。後半も一進一退の攻防が続きましたが、日本の退場者が出た時間や OF でのミスに付け込まれ 9 分から 14 分にかけて 4 連取され、同点に追いつかれました。日本も冷静さを取り戻し 2 回の 2 連取に成功し再びリードを奪いました。しかし、ラスト 10 分を切り、ギアを上げてきた韓国にこの試合 2 度目の 4 連取を奪われ、ラスト 5 分を切ったところでこの試合初めてリードされてしまいました。そこからは取っては取られての早いゲーム展開となりラスト 1 分に速攻が決まりリードをしましたが、すぐさま相手にシュートを決められ追いつかれました。ここでタイムを要求し、強気に最後まで戦おうとチームに檄を飛ばしむかえたラストプレーで阿部がシュートを決め、ユース世代で初めて韓国に勝つという偉業達成をなすことができたと同時に、目標であった世界ユース選手権への出場枠を手にすることができました。

決勝の相手は地元のバーレーンとなり、応援の多さや会場の雰囲気にのまれないように自分たちの最高のプレーをしようとチームで共通の意識を持ち決勝に臨みました。前半は自分たちのペースで試合を進めたが、相手のノータイムフリースローが DF の枝に当たりコースが変わってゴールに吸い込まれ、相手は息を吹き返しました。後半はバーレーンのリズムでの試合展開となりました。日本は後半、退場者が続いたり相手のゴールキーパーのファインセーブにあったりと、流れを変えることができずに中盤にリードされての逆転負けとなってしまいました。

この大会を通してシュート精度の向上や個々のフィジカルアップなどの課題が見つかったので、世界選手権までには克服してさらによい結果を残せるように、日ごろから絶えず努力を続けていきたいと思います。

最後に、私たちがこのような結果を残せたのも志々場団長、所監督、古家コーチ、荻田コーチ、飯田トレーナー、大西ドクター、アナリストの横山さんをはじめ、大会関係者の皆様、快く送り出してくださる所属チームの監督やチームメイト、いつも支えてくださる親や、声をからすまで応援してくださった現地の日本人の方々、事前合宿の場の提供やトレーニングマッチの相手をしてくださった大崎電気の皆様、日本から熱い声援を送ってくださった皆様のおかげだと思っております。格別のご支援ご声援ありがとうございました。

【予選ラウンドＡグループ】

日本　28（15－13, 13－11）24　サウジアラビア

現地在住日本人の方々の大応援団が見守る中、男子ユースアジア選手権の初戦、サウジアラビアと対戦した。この試合、チーム結成当初から掲げてきたハードなコンタクトDFと、OFで人とボールを素早く動かし、スペースを創り出してからの強い攻撃を確認して試合に臨んだ。立ち上がりからエンジン全開の日本は、GKも含めたDFが機能し、RW藤田、CB村木、LB阿部らの速攻などで６連取、開始７分で７対１と大きくリードする。そこからサウジアラビアも立て直し、ハードなDFと少しの隙間でも体ごと突破してくるOFにより反撃に出る。その後も一進一退の攻防が続いたが、日本のテクニカルミスからサウジアラビアが速攻で連取し、15対13の２点リードで前半を終了する。

後半も一進一退の攻防が続くが、日本はPV高野らで３連取して引き離しにかかる。サウジアラビアも日本に退場者が出た隙に必死で食らいつき、２～３点差で試合が進む。その後、日本は、この日９得点と大暴れのRW藤田の速攻、サイドで再度引き離しにかかるが、サウジアラビアも強引な１対１を徹底し日本の退場を誘う。その嫌な流れを断ち切ったのはGK堀田。相手のシュートをことごとくセーブしてリードを保ち、最終的には28対24で初戦を勝ち取った。体ごと押し込んでくる中東勢のプレーへの対応など、課題も多く残った試合であったが、次戦のイラク戦に向けて弾みのつく勝ち方ができたので、ユース世界選手権の切符獲得に向けてチーム一丸となってチャレンジしていきたい。

【得点】藤田９点、高野５点、阿部･部井久･村木３点、徳田２点、藤川・矢野・狩野１点

【予選ラウンドＡグループ】

日本　27（12－15, 15－7）22　イラク

２戦目はイラクと対戦。イラクはこの試合が大会初戦のため、メンバー構成など情報が無い状況での試合であったが、これまで取り組んできたハードなコンタクトDFの徹底を確認し、試合に臨んだ。立ち上がり、動きの固い日本に対し、イラクはライン際にボールを集めて３連取、試合の主導権を握る。何とか立て直したい日本だが、OFミスから連続速攻を決められ、前半７分１対６と大きくリードを許す。タイムアウトから徐々に落ち着きを取り戻してきた日本は、追い上げを見せるが、要所でのシュートミス、テクニカルミスが響き、なかなか点差が縮まらない。それでも、LB部井久の破壊力抜群のロングやRB徳田のスピードに乗ったカットインで食らいつき、12対15の３点ビハインドで折り返す。

後半、現地在住日本人の方々の声援に後押しされるかのように、日本チームの反撃が始まる。DFのスペシャリスト・助安の運動量あふれるDFにチーム全体が連動し始め、持ち味のハードなコンタクトDFが機能し始める。そこからPV高野のポスト、LB阿部のロング、GK堀田のナイスセーブからLW矢野の速攻で３連取、後半３分に同点に追いつく。そこからイラクに２連取されるものの、CB村木らで４連取し、後半10分には逆転に成功する。その後も日本のハードなコンタクトDFが勢いを増し、GK堀田もナイスセーブを連発。その間、OFでは中央エリアでの２対２を起点にイラクDFを攻略、徐々にリードを広げ、最終的には27対22で勝利した。立ち上がりの悪さや、自分たちのペースに持ち込むまでに時間を要したことなど、課題もあったが、イラクの攻撃を後半７点に抑えたDFなど、収穫も多かった試合であった。

【得点】阿部６点、部井久・徳田・藤田・矢野４点、村木３点、高野２点

【予選ラウンドＡグループ】

日本　27（13－4, 14－11）15　香港

３戦目は香港と対戦。これまで同様、ハードなコンタクトDFを徹底することと、昨日の反省として、試合の立ち上がりから100％のプレーで戦うことを確認して試合に臨んだ。開始から日本のDFが機能し、GK堀田の好セーブからの速攻などで３連取、試合の主導権を握る。その後、相手のポストプレーヤーに得点を許すものの、そこからLB部井久らでさらに６連取。開始12分で９対１と大きくリードする。その後、ミスにより得点が思うように伸びない展開となったが、これまであまり出場機会のなかったRB若狭のロングやカットインで加点し、13対４で前半終了。

後半、徐々に日本のDFに対応しだした香港に対し、日本は助安の闘志あふれるDFに加え、狩野の体を張ったDF、果敢なサイドで対抗する。互角の攻防が続いた後半12分、PV助安、RB若狭、RW浅川、CB藤川らで５連取し、日本のペースで試合が進む。その後も、PV服部の速攻での豪快なシュートなどで着実に加点し、最終的には27対15で勝利した。また、本日の勝利によりグループ２位以上が確定した。次戦はグループ１位通過をかけて地元バーレーンと対戦する。

【得点】若狭５点、部井久・藤川４点、藤田３点、浅川・徳田・狩野２点、高野・阿部・服部・矢野・助安１点

【予選ラウンドＡグループ】

日本　23（10－10, 13－13）23　バーレーン

予選ラウンド最終戦の相手は開催地・バーレーン。この試合に勝てばグループ首位通過が決まる重要な試合。バーレーンの強い個人技を活かしたOFに対し、これまで続けてきたハードなコンタクトDFを徹底することを確認して試合に臨んだ。アウェイながらも、現地在住日本人の方々の声を張り上げた応援に応え、立ち上がりから日本のDFが機能し、互角の攻防が続く。序盤は日本にテクニカルミスやシュートミスが出てしまい流れが悪くなるが、GK堀田がサイド、ロング、7mTと立て続けにセーブし対抗する。そんな中、バーレーンが３連取し、前半14分に３対５とリードを許す展開となる。それでも日本は、前半24分からRB徳田、PV高野、LW矢野の３連取で10対８と逆転に成功する。その後、バーレーン№９の強引なロングで失点し、10対10の同点で前半を終了する。

後半も互角の展開となるが、日本はこの日絶好調のRB徳田、LB部井久、LW矢野らで４連取し、後半10分には16対12と引き離しにかかる。その後、一進一退の攻防が続いたが、後半15分RB徳田が7mTを決めて、この日最大の５点リードとする。ここから地元大観衆の声援を受けたバーレーンが、DF隊形を変化させ反撃に出る。後半17分から３連取、後半19分からさらに４連取し、22対21とバーレーンが逆転に成功する。この間、審判の不可解なジャッジに苦しんだ日本は、要所でのシュートミスやテクニカルミスでなかなか思うように点数が伸びない。それでもGK堀田の気迫のセーブからRB徳田のカットインなどで対抗し、最終的には23対23の同点で試合終了となった。この結果、日本はＡグループ２位となり、次戦はＢグループ１位の韓国と対戦する。OF、DFともに狙い通りのプレーが随所に見られ、チームとして成熟してきているが、中東特有の体を預けてくるプレーや審判のジャッジの見極めや対応など、アジアで勝つためにはまだまだ多くのことを習得しなければならないと感じた試合であった。

【得点】徳田10点、部井久４点、高野・村木・藤田・矢野２点、阿部１点

【決勝トーナメント・準決勝】

日本　30（17－14, 13－15）29　韓国

男子ユースアジア選手権の準決勝は宿敵・韓国と対戦。この試合に勝てば世界ユース出場が決まる重要な試合。この日も現地在住日本人大応援団の後押しを受け、日本ユース代表チームは世紀の一戦に臨んだ。立ち上がり、日本はLB阿部のロングなどで先行し、開始３分で３対１とリードする。その後、韓国もポストプレーヤーにボールを集めて反撃、前半６分に５対４と逆転する。そこから日本は、韓国の高いDFに対して果敢に突破を試み、ポスト、カットインで加点。韓国は№77の切れ味鋭いフェイントを軸に攻撃を展開してノーマークを作るものの、GK堀田が韓国のシュートをことごとく阻止。その間にRW藤田、LB阿部、RB徳田で３連取し、前半15分に13対９と日本がリードする。その後、一進一退の攻防が続き、17対14の３点リードで前半終了。

後半も互角の展開で始まったが、後半９分に韓国が数的不利な状況からフィールドプレーヤー６人で攻撃を仕掛けてきたところ、マイボールにした日本はPV助安が無人のゴールへ投げ込み21対17とし、この日最大となる４点リードを奪う。そこから地力のある韓国も№77を中心に猛攻を仕掛け、２度にわたる４連取などで後半26分25対26と、ついに逆転を許す。それでも日本は慌てず、RB徳田、LW矢野と加点し食らいつく。後半28分に韓国№77のカットインが決まり、28対27と再度韓国リードとなるが、ここからキャプテン村木の気迫のロング、RB徳田の切れ味鋭いロングで後半29分29対28と再び日本が逆転。その後、韓国№14のシュートで再び同点となったところで日本がタイムアウト。OFの確認をして、選手は歴史を変えるぞと叫び、固い決意をもって最後のOFに臨んだ。そして後半29分56秒、LB阿部が試合を決めるカットインを豪快に叩き込み、30対29で日本が勝利した。会場の大声援、選手の闘志あふれるプレーがひとつとなって得た勝利であった。決勝の相手は地元・バーレーン。アジアチャンピオンの座をかけて、再び歴史を変える一戦に臨む。

【得点】 徳田９点、矢野６点、阿部５点、村木４点、髙野･藤田２点、部井久・助安１点

【決勝トーナメント・決勝】

日本　23（12－9, 11－16）25　バーレーン

男子ユースアジア選手権の決勝は地元・バーレーンと対戦。グループリーグで引き分けた相手に対し、これまで続けてきたハードなコンタクトDFと、スペースを創り出しそこから積極的に前を狙うOFを徹底することを確認して試合に臨んだ。会場は3000人を超える大観衆で埋め尽くされ、拡声器を使った応援や地鳴りのような足踏み、ブーイングが飛び交う異様な雰囲気。それでもこの日も日本人応援団はありったけの声を張り上げて選手を勇気づける。前半開始、日本はこの日も好調のGK堀田のセーブから、LW矢野、RW藤田らの速攻などで連取し、試合の主導権を握る。その後も日本は中央を守る髙野、阿部を中心としたハードなコンタクトDFを繰り返し、バーレーンを精神的に追い詰めていく。日本のプレッシャーに冷静さを欠いたバーレーンに退場者が相次ぎ、前半25分12対７と日本が優位に試合を進める。前半終了間際、バーレーンのロングとノータイムフリースローからの直接シュートが決まり、12対９の３点リードで前半終了。

ますますヒートアップする観衆の声援により、隣の声や審判の笛も聞こえづらい状況になる中、後半開始からギアを上げてきたバーレーンは、№18のサイドなどで連取し、11対12と１点差に迫る。ここで日本に連続で退場者が出てしまい、コートプレーヤーが４人となってしまう。このピンチの状況でも、GK堀田のビッグセーブやLB部井久のロングが飛び出し、何とかリードを保つ。しかし、ますます勢いを増すバーレーンが№18のサイドなどで３連取し、ついに16対15とこの試合初めてリードする。そこから一進一退の攻防が続き、何とか抜け出したい日本であったが、相手GKの好守によりなかなかシュートが決まらない苦しい展開が続く。後半23分、バーレーンのポストが決まり、ついに22対20と２点差がついてしまう。その後も日本はPV髙野の渾身のポスト、キャプテン村木の意地のロングで対抗するが、23対25で敗戦した。勝負所でのシュートの精度、強度といった部分の少しの差が明暗を分けた形となった。今大会続けてきたハードなコンタクトDFは、アジアでも充分通用することが証明できた。また、準決勝での韓国との激戦や、決勝戦のような完全アウェイでの環境の中でも、選手たちは積極的にファイトし続けることができた。多くの収穫と共に課題も得られたので、これからの世界ユース、またその先に向けて取り組んでいきたい。

【得点】 阿部・徳田・村木・藤田・矢野４点、髙野・２点、部井久１点



第45回 全国中学校ハンドボール大会

開催期日：平成28年8月21日(日)～24

いしかわ総合スポーツセンター

最終順位

【男子】
優　勝：氷見市立北部中学校（富山県）
準優勝：名古屋市立滝ノ水中学校（愛知県）
３　位：小松市立南部中学校（石川県）
　　　　守谷市立けやき台中学校（茨城県）

【女子】
優　勝：宇城市立松橋中学校（熊本県）
準優勝：小松市立芦城中学校（石川県）
３　位：宇土市立鶴城中学校（熊本県）
　　　　東久留米市立西中学校（東京都）

大会を振り返り

石川県実行委員会事務局長
山中　努

2016年の夏は、世界的にはオリンピックイヤーということで、地球の反対側のブラジル・リオデジャネイロでは4年に一度のオリンピックが開催され、柔道・体操・水泳・卓球・バドミントン等々、様々な競技種目で計41個ものメダルを獲得し、日本中を大いに沸かせ、我々に大きな感動や感激を与えてくれました。

そのような興奮冷めやらぬ夏でしたが、時を同じく、ここ石川、金沢の地において8月21日～24日の4日間にわたり、「君の夢　努力の蕾　北信越で華となれ」の大会スローガンのもと「平成28年度全国中学校体育大会第45回全国中学校ハンドボール大会」をいしかわ総合スポーツセンターにて開催いたしました。

本会場では、各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いてきた代表チームが集まるなか、激戦が繰り広げられ、男子では、富山県勢として2年連続、チームとしては15年ぶりとなる富山県氷見市立北部中学校が、女子では、春の全国中学生ハンドボール選手権大会を制した熊本県宇城市立松橋中学校が春夏2連覇、夏の全国大会では20年ぶりの栄冠を手に入れる結果となりました。特に、女子の宇城市立松橋中学校、第3位に輝いた宇土市立鶴城中学校におかれましては、震災による影響も大きい中、見事蘇りました。入場行進では、全国のみなさんに対する感謝の気持ちを横断幕とともに表し、試合では春の全国大会の時よりもより強い絆・決意を前面に押し出したプレーで会場を盛り上げてくれました。また、開催地である石川県勢においても、女子では小松市立芦城中学校が準優勝、男子では小松市立南部中学校が第3位という好成績を収め地元開催に花を添えてくれました。

本県での全国中学校ハンドボール大会の開催は、第4回大会以来、実に41年ぶりということもあり、本実行委員会では、どのような形で全国の選手・チーム役員、保護者、大会役員、審判団等のみなさんをお出迎えすればよいかなど期待と不安の中、2年前から大会開催に向けて、県内全体の競技力向上も含め様々な準備を行ってきました。そして、観光都市金沢の一員として、来県して頂いたみなさんに「もてなしの心」を大切に接していくとともに、全国大会という素晴らしい舞台に数多くの県内中学生ハンドボーラーが関わり、生徒の心にも残るような大会にしたいと考えて運営を行ってきました。

改めて、生徒役員として献身的に動いてくれた県内・金沢市内の中学生ハンドボール部員に感謝致します。また、毎年「春の全国中学校ハンドボール大会」を開催している隣県の富山県の熱いご指導、ご支援を頂くなど北信越の各県ハンドボール中体連競技部、石川県ハンドボール協会、石川県中学校体育連盟、県内郡市中学校体育連盟とも連携を密に取り、絆を深められたことを強く感じております。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力いただきました（公財）日本中学校体育連盟、（公財）日本ハンドボール協会、石川県、金沢市、石川県ハンドボール協会、北信越中学校体育連盟、石川県中学校体育連盟、金沢市中学校体育連盟、そして各協賛各位に改めて厚く御礼申し上げますとともに、次年度開催である沖縄県大会の成功を祈念して、今大会のお礼のあいさつとさせていただきます。








東本震災復興応援
ありがと


IWASAKI









写真提供：スポーツイベント社

男子優勝　氷見市立北部中学校（富山県）

氷見市立北部中学校監督　小嶋 啓新

三者を繋ぐ

ゲームセットのブザーが会場に響きわたり、歓喜の声がわき上がった。コーチと選手たちが顔をぐしゃぐしゃにして大粒の涙を流し抱き合う姿で、自分の視界を覆い尽くしていた。テレビドラマのワンシーンを観ているかのようだった。選手が駆け寄り、自分の体が２回３回と宙に舞った。こんなに幸せな時間を味わっていいのだろうかとしみじみ感じる。

新チーム結成以来、彼らは春の全国中学生ハンドボール大会の準々決勝まで、公式戦で負ける悔しさを知らなかった。仲間が困っていても自分のことを考えていた。下級生が用具の管理を怠っていても指導をしなかった。また、遠征での就寝時間が重要であると感じていなかった。メンバーが怪我をしてコートから離れても負けることはないと思っていた。しかし、その綻びは次第に大きくなり、一人一人の小さな心にのしかかっていった。ほどなく氷見市内で初めての大会で敗戦を味わった。チーム雰囲気は悪くなり、選手に焦りが見え始めた。しかし、主力選手が抜けた穴を必死に埋めようと控え選手が頑張ってくれた。北信越ブロック大会前には、怪我をしていた主力選手が戻り、チームのモチベーションが確実に上がった。スターティングメンバー７人を中心に進めていた試合展開が交代しながらの試合となり、選手層が厚くなった。コーチが意図するいろんなチームに対して柔軟に対応するディフエンスができること、コンビネーションプレーが崩れたときの１対１で勝負するということを選手は感じ取ってくれた。選手が変わった。コーチも変わった。私は監督としてそれを見守り、サポートに回った。コーチ・選手・父母会の三者の絆を繋ぎ役に徹した。

全国大会準々決勝の先取点、自分の目からスーと涙が流れた。得点が入るたび、キーパーがシュートを防ぐたびに涙が流れ、ゲームが涙で見えなくなっていった。選手がゲームを楽しんでいる姿に感激し、ユニフォームが金色に輝いて見えてきた。立ち上がり４連続得点の攻撃を受けたときも、コーチと選手お互いの思いを分かり合おうとする会話があり、相手に立ち向かう勇姿は今も脳裏に焼き付いている。

富山県・氷見市・ハンドボール協会の方々、そして選手のご家族の皆さん支えがチームをここまで押し上げていただいたことに感謝申し上げます。

氷見市立北部中学校主将　朝野 暉英

恩

一つの大きな目標であった『全国制覇』。しかし、春の全国中学生ハンドボール大会では準々決勝で１点差で負けてしまいました。敗因は体力がなくなってしまったことです。大会後は走り込みとフットワークの量を増やしました。毎日、３年生でミーティングを行い自分たちには何が足りなくてどんな練習をしたらよいかを話し合ってきました。技能面以外にもとても細かいことに気を付けていました。例えば、シューズはスペースを取らないように少し重ねてならべること。挨拶は、目線を合わせてどんな人にも頭を下げること。そんな細かいことが一つ一つのプレーに関わってくると監督はいいます。

僕たちが日本一のチームになれたのは、選手だけ頑張ったのではありません。いつも大変な中、ハンドボールを教えてくださった監督、コーチ、そして僕たちが少しでもよい環境でできるように支えてくださった父母会の皆様にこれからもずっと感謝していきたいと思います。

今思うと、北信越ブロック大会までにたくさんの壁が僕たちを襲いました。３年生部員がやめたいと言い出したこと。お互いが自分の意思を伝えきれずコンビネーションプレーが乱れたこと。確実に決めなければならない場面で気持ちの弱さから来るシュートミス。そして、一番苦しんだのが自分を含めた主力の怪我があり、北信越ブロック予選会にも出場ができないかと悩む日々が続きました。しかし、自分たちが追い込まれたときにはいつも仲間がいました。みんなで乗り越えていこうと話し合いがありました。部のリーダーとして一人で悩んでいる間違いに気づきました。そんなみんなの思いを受けて望んだ全国大会の４試合を戦う前に「不安」や「焦り」は一度もありませんでした。自分たちは引退したときに悔いの残らない練習を重ねていこうと話し合ってきました。だから、相手にリードされても負ける気はしませんでした。毎日のつらい練習と自分についてきてくれた 29 人の部員が大きな自信となったのだと感じています。

これからも自分たちに注いでくれた「恩」を忘れず、一日一日の生活を大切にし、沖縄で開催される JOC ジュニアオリンピックカップハンドボール大会へ向けて再出発していきたいと思います。



写真提供：スポーツイベント社

女子優勝　宇城市立松橋中学校（熊本県）

宇城市立松橋中学校監督　若山 順子

全ての方々に感謝

今回、全国中学校ハンドボール大会に参加することができ、また優勝という成績を収めることができましたことを大変嬉しく思っております。同時に、準備から大会まで、支えて下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

昨年は、春の全国大会も夏の全国大会も、優勝した明倫中学校と対戦し、春は１回戦敗退、夏は２回戦敗退という悔しい結果に終わっていました。新チームになり、『先輩の分も絶対日本一になる！』という目標をみんなで決め、13 人全員で臨んだ春の全国大会。僅差ではありましたが優勝することができ、『春夏連覇を！』という目標に変え、気持ち新たに頑張ろうとして矢先の熊本地震。何が起こったのか、これからどうなるのか先が全く見えず、とにかく不安だらけの３週間でした。久しぶりに集合した時は、選手の体力は落ち、ボールの感覚もなかなか戻らない状態でしたが、連覇を達成するために…という選手たちの強い気持ちがひとつになり、きつい練習も全員で乗り越えてくれたと思います。

全国大会では、春に優勝していたこともあり、周りからの期待が高く、いろんな方々に声をかけて頂きました。試合では、最後の大会ということもあってか、若干の硬さはあったものの、守って走り、走っては守り…という松橋中学校らしいプレーで、一戦一戦クリアしていくことができました。決勝戦は春と同じ対戦でしたが、春に出た課題は絶対繰り返さない！と全員で確認して臨みました。

全試合が終了し、石川県の競技役員の方に呼び止められました。「松橋中学校の生徒は何回会ってもみなさん何回も挨拶をしてくれて、素晴らしい生徒さんばかりですね！　地元（石川県芦城中学校）にも頑張ってほしいと思いますが、みんなで（応援したくなるチームだね！）と話していました！
見ていて気持ちが良かったです！　この事をどうしても伝えたくて!!」と言って下さいました。ハンドボールを通して教えたかった『人間形成』が生徒たちにしっかり伝わっていたと思うと、優勝と同じくらいの喜びを感じ、最後まで嬉しい大会となりました。

４月に起こった熊本地震で、たくさんの方々から電話をいただき、練習会場を準備して下さったり義援金を送って頂いたりと、言葉では感謝しきれないほどのご支援を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。この生徒たちに巡り会えたこと、この生徒たちを育ててくれた保護者、一緒に指導してくれたスタッフに感謝し、これからも頑張っていきます。ありがとうございました。

宇城市立松橋中学校主将　一ノ宮 萌

たくさんの方々に支えられて「春夏連覇」

春の全国大会が終わり、「春夏連覇」という次の目標にスタートをきったばかりだった４月 14 日夜、熊本地震が発生し、震度７という今まで経験したことのない大きな揺れを体験しました。私たちの住む宇城市でも、建物や道路などが壊れ、大きな被害がありました。部員のみんなも車中泊や避難所での生活で、今まで当たり前だった生活すらできず、学校も２週間休校になりました。学校が再開し、部員全員が集まって練習ができたときは本当に嬉しかったです。でも、２週間以上練習できていなかったので、体力が落ちてしまっていて、走り込みや体力トレーニングからのスタートで、周りのチームに追い越される不安やきつい練習メニューに気持ちが折れそうになったこともありました。

そんな中、春中で戦ったライバルチームをはじめ、全国の方々からたくさんの励ましの言葉やご支援をいただきました。「また全国の舞台に立って笑顔でお礼を言いたい！」と思い、チーム一丸となって頑張ることができました、全中では、春夏連覇のプレッシャーもあり、初戦は硬くなってしまい、思うようなプレーができませんでしたが、試合を重ねる毎に自分たちのリズムをつかむことができ、決勝では守って速攻の松橋中らしいプレーで勝つことができました。

「春夏連覇」という最高の結果で終わることができたのも、これまで指導して下さった先生・コーチ、私たちを支えて下さった保護者の皆様、震災において励ましの言葉やご支援を頂いた全国の方々、私たちを応援して下さった皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございました。


7


6


15







男子　**戦　評**　女子

男子

■準決勝

氷見北部　30（13－6、17－6）12　小松南部

注目の北信越対決。小松南部中は、序盤から永原らのシュートを中心に 4 連続得点を奪い勢いをつけた。しかし、対する氷見北部中も徐々にリズムを掴み、粘り強い守りで小松南部中のミスを誘い、速攻に繋げ追い上げを見せた。小松南部中 GK 宮城の好セーブが光るも、氷見北部中の高さのあるディフェンスに苦戦し、13 対 6 と氷見北部中がリードし前半を折り返した。

後半になっても氷見北部中の勢いは止まらず、朝野の強烈なロングシュートや澤井のポストシュートで小松南部中を突き放し、最後まで要所を押さえた氷見北部中が勝利し決勝に進んだ。敗れた小松南部中も開催地石川の代表として健闘をみせた。

滝ノ水　20（6－7、14－7）14　けやき台

けやき台中のスローオフで開始。ほぼ互角の立ち上がりから、けやき台中は岩田のポストプレー、染谷のロングシュートを中心に点数を重ねた。さらに、GK 堀越の連続セーブもあり一時は 5 点をリードした。対する滝ノ水中はミスが重なりなかなか主導権を奪えずにいたが、GK 加藤の好セーブと森本のロングシュートなどで徐々にリズムをつくり、点差を 1 点にまで縮め前半を折り返した。

後半開始直後、滝ノ水中は打越のシュートで同点に追いつくとフローター陣のシュートが立て続けに決まり逆転に成功した。勢いに乗った滝ノ水中は森本と三谷を中心に得点を重ねて点差を広げた。けやき台中も田口を中心に多彩な攻めで対抗するも、滝ノ水中がリードを守りきり勝利した。

■決勝

氷見北部　28（13－6、15－8）14　滝ノ水

氷見北部中のスローオフで開始。試合開始早々、氷見北部中の坂、滝ノ水中の打越が得点した。ほぼ互角の立ち上がりだったが、氷見北部中の GK 紅出の好セーブから速攻がつながり、徐々に主導権を握り始めた。対する滝ノ水中も三谷らを中心に反撃に出るが、氷見北部中の 7 分にスカイプレーを決めるなど着々と得点を重ね 13 対 6 で前半を折り返した。

後半も氷見北部中の勢いは止まらず澤井の速攻や多彩な攻めで会場を沸かした。一方の滝ノ水中は大矢を中心にシュートや速攻などで攻撃をしかけるが、ミスも重なり主導権を奪えずに試合は終盤へ。終始、リードを保った氷見北部中が 28 対 14 で勝利し、全国の王者に輝いた。

女子

■準決勝

松橋　33（18－12、15－9）21　東久留米西

東久留米西中のスローオフで開始。試合開始から 4 番のロングシュートを中心により勢いに乗る松橋中に対して、東久留米中はポストを上手く使った攻めと 1 番の好セーブにより流れを掴もうと試みた。しかし堅い守りからの速攻で松橋中は徐々に点差を広げた。東久留米中 3 番はポストの位置から積極的にシュートを仕掛け、相手のファールを誘って 7mT を獲得するも、松橋中 1 番はこれを阻止。さらに松橋中は 2 番のロングシュートなどで得点を重ね、6 点差で前半を折り返した。

後半開始から松橋中は速攻で得点を重ね、さらに点差を広げた。東久留米中も 3 番を中心に粘り強く得点するも、松橋中のコンビネーションから繰り出す機動力の前には歯が立たず、要所を押さえてリードを保った松橋中が勝利した。

芦城　26（11－9、10－12、2－1、3－1）23　鶴城

注目の準決勝、小林の一点で芦城中先制。藤井（咲）の鋭いフェイントが光り、芦城中ペースかと思えば、鶴城中白石が好プレーを連発し、すかさず反撃。追い上げを見せる鶴城中だったが、藤井姉妹の活躍、GK 長野の好守もあり、芦城中 2 点リードで前半を折り返した。

一進一退の攻防から始まった後半、先に流れを掴んだのは芦城中。辻の 2 連取や藤井（美）のシュートが決まり、後半 12 分には差を 5 点に。しかし再び白石の活躍で粘りを見せた鶴城中は、平田の速攻が決まり同点に追いつく。勝負の延長戦、闘志を燃やす芦城中が後半 3 分半に 4 点リード。芦城中がそのまま逃げ切り決勝進出を決め、鶴城中はあと一息のところで涙を飲んだ。

■決勝

松橋　19（7－6、12－4）10　芦城

春中決勝の再現となった一戦は、キャプテン一ノ宮のシュートで松橋中が先制。そのまま持ち味のクイックスタート、速攻が機能し、開始 7 分で 4 点差をつける。序盤にリードを許した芦城中だが、藤井（美）の活躍で前半 15 分に同点。両者足のよく動いたディフェンスで粘り、松橋中 1 点リードで前半終了。

後半、一ノ宮と畑山のロングシュートでリズムをつくる松橋中。芦城中も生駒、中谷のシュートで食らいつくが、松橋中の優勢は変わらず。山脇のシュートで 5 点差となり芦城中はたまらずタイムアウト。しかし、20 分過ぎの 5 連続失点で流れを掴み切れなかった。終始足が止まらなかった松橋が歓喜のタイムアップとなった。

第18回 全日本ビーチハンドボール選手権大会

期日：平成 28 年 8 月 27 日(土)、28 日(日)
会場：兵庫県神戸市　舞子浜海岸東浜緑地「アジュール舞子」 特設コート



■男子の部
優　勝　ABG2016
準優勝　ボンチフェローズ
3　位　LALLAPALLOOZA



■女子の部
優　勝　ABG2016
準優勝　SHINE
3　位　ハミングバード



第 18 回全日本ビーチハンドボール選手権大会を振り返って

日本ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会委員長　**大原 康昇**

去る、8 月 27 日（土）・28 日（日）に兵庫県・神戸市アジュール舞子で第 18 回全日本ビーチハンドボール選手権大会が開催されました。西地区でビーチハンド発展の拠点として神戸で大会を開催しています。8 月下旬とはいえ猛暑続きで会場設営等は大変でしたが、26 日の初心者講習会には 30 数名が参加してビーチハンドボールに親しんでいただきました。大会当日は台風 10 号の影響もあり曇り空の下で試合が行われ、幸い負傷者や熱中症者も出ず、無事大会を終えることができました。試合結果は次の通りです。

男子の部、優勝 ABG2016（東京）、2 位ボンチフェローズ（大阪）、3 位 LALLAPALLOOZA（兵庫）。

女子の部、優勝 ABG2016（東京）、2 位 SHINE（東京）、3 位ハミングバード（愛知）。

上位チームに心から賛辞を贈ると共に、健闘された各チーム選手諸君に敬意を表します。

また、国内においても、沖縄、宮崎、愛知、横浜、千葉、行方（茨城）、青森等で大会が開催されています。是非、一度は経験していただきたいと願う次第です。チームは 10 名編成ですが、5、6 名でも十分に試合はできます。1 得点シュート、2 得点シュートありで 2 セット制です。セットカウント 1 対 1 になればショッツアウト（5 人交互に 1 人速攻シュート）で勝敗を決めます。特に、若年層においては砂上であり、トレーニングの一環として参加していただければと思います。

国内のビーチスポーツ施設はまだまだ整備されていませんが、各都道府県の協会役員の皆様方のご協力とご理解を得てビーチハンドを発展させ、ハンドボールの愛好者を増やせればと願っております。

最後に大会開催にあたり、ご指導、ご協力いただいた日本協会をはじめ、兵庫県、神戸市の各団体、大会を応援していただいた神戸新聞、アシックス、モルテン等の各企業に心からお礼を申し上げます。また、大会を陰から盛り上げていただいた大会役員関係の皆様、本当にありがとうございました。

第1回アジアユースビーチハンドボール大会

期日：2016 年 8 月 10 日(水)－ 16 日(火)　　会場：タイ・パタヤ

男子

順位	チーム	Pts	MP	W	L	PW	PL	Diff
1	タイ	6	4	3	1	6	3	+3
2	チャイニーズタイペイ	6	4	3	1	6	3	+3
3	パキスタン	4	4	2	2	4	5	-1
4	カタール	2	4	1	3	4	6	-2
5	イラン	2	4	1	3	4	7	-3

女子

順位	チーム	Pts	MP	W	L	PW	PL	Diff
1	中国	6	3	3	0	6	1	+5
2	タイ	4	3	2	1	5	3	+2
3	チャイニーズタイペイ	2	3	1	2	3	4	-1
4	香港（中国）	0	3	0	3	0	6	-6

女子優勝 ABG2016

ABG2016 キャプテン　中谷 香織



私たちのチームは、ビーチハンドボール競技を昨年始めた選手や国際大会経験者までと経験値は様々です。その為、自チームでの練習の他にも2大会に参加して実戦経験を積むことで、今大会の優勝を果たす事が出来ました。

ビーチハンドボールは、4対3という攻撃側が常に数的有利な立場にあります。その為、シュートに行く事は比較的容易であり、この競技特有のスピンやスカイなど5種類の2点シュートで得点していくことが勝敗の鍵を握るともいえます。

昨年までの試合を振り返ると、2点シュートは簡単ではない為、1点になってしまう場面が多くありました。国際大会で他国と互角以上に戦う為には、2点シュートが絶対不可欠になります。今シーズンは、2点の確実性を上げていけるよう常に声を掛け合い、試行錯誤しながら果敢に2点シュートを狙い、個々の技術向上に努めました。その結果、自信がつくと共に迷いがなくなり、確実性の向上に繋がったと感じます。事実上の決勝であるSHINE戦では、2点の取り合いとなりました。守備では、2点を得点されない為にどこを重点的に守り、どのようにミスを誘うかなど常に駆け引きが存在し、攻撃では数的有利な立場を使った戦術で、両チームとも次々に2点を得点していきました。これがビーチハンドボール競技の面白いところであると私は感じています。

今年は、日本でビーチハンドボール競技が始まって20周年を千葉の富浦で迎えましたが、女子はまだ1点のスタイルが多く見られます。2点を積極的に狙うチームが増えることで、この競技の普及発展に繋がるのではないでしょうか。ビーチハンドボールに特化した戦術で、観る側も更に楽しめる競技になっていくことを願っております。

最後になりましたが、今大会の開催にあたりご尽力頂いた日本ハンドボール協会、ビーチハンドボール委員会及び、兵庫県ハンドボール協会、運営補助員の皆様方に、心より感謝申し上げます。

戦　評

男子

■8月28日（日）：3位決定戦

LALLAPALLOOZA ×東海 Weeds!

リーグ戦ともに2位だった東海Weeds!とLALLAPALLOOZAの試合は、東海Weeds!蓮田のシュートで先制した。LALLAPALLOOZAは、GK祐保の好セーブでリズムを作り、GK中村の2点シュートで点数を重ねて、1セットを取った。

2セット目は点の取り合いとなり、終盤に東海Weeds!曽田の連続得点により同点となり、ゴールデンゴールへ。ジャンプボールを制した東海Weeds!が決勝点を決めた。

ショットアウトは、両チームとも1人目が外すも、残り4人が決め、決着がつき唯一の男女混合チームの東海Weeds!が力及ばず、LALLAPALLOOZAが勝利した。

■8月28日（日）：決勝戦

ボンチフェローズ× ABG2016

1セット目は、お互いにGKの好セーブが続き、緊張感あるゲーム展開。徐々にABG2016の厳しいディフェンスで、ボンチフェローズは攻めてを欠き、チャージの反則も増え、速攻からABG2016が加点していった。ボンチフェローズも岩城の2点シュートでくいついていくが、ABG2016の高良のディフェンス、パスカットからの2点シュートで突き放した。

2セット目は、ABG2016の中野のカットイン2点シュートでスタート。その後しばらくの間6対3のまま硬直。GKの好セーブとシュートミスが続く。ABG2016のシュートミスが多くなり、ついに8対8とボンチフェローズが同点で緊迫した状態になった。終了3秒前に、ボンチフェローズのパスミスから反則、すぐにABG2016がゴールを決め、9対8でABG2016の勝利となった。

女子

■8月28日（日）：第3試合

SHINE ×ハミングバード

1st Period：ハミングバード18番の先制シュートで始まるが、SHINEの連続シュートが外れ、入替えミスも重なり、追加得点を阻止するディフェンスで痛恨の退場者を出し、少人数で歯車が噛合ったハミングバードが13対9で1st Periodを取った。

2nd Period：SHINEは1st Periodの嫌な流れを断ち切ろうとオフェンス、ディフェンスともに積極的に動き、ハミングバードの連続シュートミスを誘い逆速攻で得点を重ねたSHINEが12対4で2nd Periodを取った。

ショットアウトに入るが、SHINEの勢いが止まらず少人数で戦ったハミングバードを6対3で振り切った。

■8月28日（日）：第5試合

ABG2016 × SHINE

決勝リーグ最終戦は前年度優勝チームで今年度も圧倒的な強さで勝ち上がったABG2016とステッグ・ハミングバードの2試合をショットアウトで制した前年度準優勝のSHINEとの対戦になった。立ち上がり4連続2点シュートでABGが8点のリード、ABGのディフェンスが固くSHINEが6点差でタイムを取り、直後に3点を返すが、ABG2点シュートを5本決め1セット目を取る。

第2セットはSHINEのボールで始まったが、シュートがゴールポストに当たり、直後にABGのキーパに決められる。その後同点のままABG6番の2点シュートSHINE7番の2点シュートで返したが、ABGに2点リードで、SHINEがタイムを取る。6番の2点シュートで同点となるが、残り2分ABGの1点リード、残り1分ABGの2点シュート、SHINEの1点シュート。ABG2点リードでタイムを取る。ラスト40秒SHINE6番の2点シュートで同点となりタイムアップ。ゴールデンゴールでABG6番が決勝点を決め、全勝で優勝を決める。

平成28年度

第24回全日本マスターズハンドボール大会

期日：平成28年8月19日(金)～
8月21日(日)
会場：豊橋市総合体育館
豊橋市下五井地区体育館
豊橋市石巻地区体育館
蒲郡市民体育センター
蒲郡市立大塚中学校体育館
豊橋市市民球技場

第24回全日本マスターズハンドボール豊橋大会を振り返って

再会…想い出…別離…新たな旅立ち

大会事務局／豊橋ハンドボール協会　**榎山 哲生**

2016年、片田舎の当協会にとって大変な年になりました。昨年、女子日本代表「おりひめジャパン」とデンマーク強豪クラブを迎えての国際強化試合ですら、準備から運営まで慣れていない私達には不安とドタバタの連続でした。それが…最終的に88チーム、約1000名のシニアハンドボーラーを当地に迎えて、全国大会をサポートすることになったのです。

豊橋市制施行110周年記念事業の一環として、小さい組織ながらも「楽しい想い出創りの提供」を目的とし、「安全・安心の提供」と、「おもてなしの環境・サービス」を合言葉に準備を進めることにしました。小山先生を始めとする名古屋の方々には、いろいろな面で終始アドバイスを頂きましたが、私達の不慣れで場当たり的な対応が原因で、問題・課題は容赦なく襲い掛かってきました。

最初の躓きは全8面で想定した競技場の確保でした。前年から4面の総合体育館は確保していましたが、2面会場のない当地では残り4競技場が必要でした。2016年春から慌てて手配しましたが、時既に遅く豊橋市内では調達が不可能でした。そこで隣の蒲郡市関係者に相談し残り2面を何とか確保出来ましたが、結果として利便性に欠ける競技場の環境になってしまいました。参加チームの皆さんには、会場の移動で大変なご不便をお掛けし、申し訳なく反省しております。

次に最も悩んだのが大会の中核を担う競技日程・会場・組合せの作成でした。Over60カテゴリー開催への配慮により、会場・試合時間・審判担当等、同時に考えなければならず難解なパズルを解くような焦燥感に襲われ、86チームの暫定版を作成するのに3日間を要しました。更に「お知らせ1」を送付後、数チームから要望や、最終的に2チームが締切り後増えたことにより、競技日程・組合せ表は日を追う毎に変化を重ねていき、最終的には一部大会プログラムに反映出来ない有様でした。何か1つ変更する度に数チームへの変更確認･承認をお願いすることになり、その点でも当該チームには大変ご迷惑をお掛けし、本当に申し訳なかったと感じています。

今まで先人達に参加する立場でお世話になっていたこともあり、そのご苦労を身を以って痛感する機会であり、大会準備の中で最も時間を要し、心を痛めたプロセスでした。併せて宿泊や懇親会場の予約・手配、テーピングサービスの体制、そしてちびっこイベントの準備等の目に見えない想定を前提とした準備も、締切り後の大きく食い違う実態を目の当たりにして、1ヶ月間不安と対峙し、一喜一憂する日々が続きました。

今大会を通じて今後準備段階で改善が必要だと強く感じたことを、今後企画して頂ける方の負担を減らすためにも2点ご提案致します。

1.「締切」の意味について、参加チームへの意識改革・周知徹底
参加チーム登録、メンバー変更、各サービスの申込等全般
2.大会本部とチーム間の情報交換方法・約束事の再検討
原則PCメールでのやり取りでしたが、開封通知への返事が無いチームも多く、重要なお知らせ事項等については発信側が不安になる事も多く発生した。（携帯メールやSNSの複合利用）

不慣れな中、準備段階から多くの関係者や参加チームにお叱りを頂いたり、背中を押されたりの準備期間ではありましたが、心配していた台風の影響も無くなり、厳しくも優しい陽光が降り注ぐ中､8月19日（金）､11人制大会を開催する運びとなりました。サポーターとして初めて目にする競技でしたが、炎天下芝生のサッカーコートで競技に集中する参加者達を見ていて、正直その情熱に畏敬の念を抱かずにはいられませんでした。飛び入りで参加させて下さった小山先生に感謝しています（想像以上に疲れ果てましたが…）。

翌日からの7人制2カテゴリーの133試合の熱戦が行われました。「安全・安心の提供」を合言葉にしてきたつもりですが、第1試合からアキレス腱断裂の怪我人が発生し、大会を通じて数名の方が大なり小なり怪我をするという状況を招いてしまいました。これももう少し参加チームへのテーピングサービスや準備運動について、強力なメッセージを伝えなければいけなかったと悔やんでいます。

8月20日（土）の懇親会についても1ヶ月前からの対応で、準備不足を懸念しましたが、最終的に400名に近い参加者となり、イベント（和太鼓、フラダンス、模擬店等）を含めあっと言う間の2時間を和気藹々と過ごして頂いたと感じています。尚、毎年協賛して頂く霧島酒造様の焼酎は、見事に1本も残りませんでした。

さて、最後に小生を含め全国のシニアハンドボーラーが一年に一度楽しみにしている真夏の祭典を、迫り来る不安の中、ご指導、お叱り、そしてご支援を頂く日々の積み重ねで、合格点は頂けないまでも何とか合同カテゴリー最後の記念となる大会を終える事が出来ました。その中でも88チームの皆さん方とのPCメール、携帯電話、携帯メールを通じての膨大なコミュニケーションの中で、本当に多くの掛け替えのない経験と想い出を受け取ることが出来ました。ここに陰ながら支えて頂いた全ての機関や関係者の皆様方、そして参加して頂いた全てのチームのみなさんに心から感謝申し上げます。そして2017年からスタートするカテゴリー別の3大会が素晴らしい新たな第一歩を踏み出すことを心より祈念し、「第24回全日本マスターズハンドボール豊橋大会」への振り返りのご報告と致します。

「2020年に向けて、全国ハンドボーラーの活躍と力の結集を！」

男子優勝
順位決定型《青グループ》

HC330



監督兼選手
安田　浩

第24回全日本マスターズハンドボール大会順位決定型において、昨年に続き優勝出来た事を心より嬉しく思います。

HC330は、かつて近畿のクラブチームで活躍した選手が集まって結成したチームです。いつまでも勝ちにこだわり、まだまだ出来るをモットーに活動しています。

今大会も1日目はクーラーが無い体育館での試合だったので、ウォーミングアップも少し抑えて体力を温存して試合に挑みました。初戦は全員が試合に出て慣れる事を考え、試合は接戦だったものの、上手く流れを作り全員がコートに立ち勝つ事が出来ました。準決勝は昨年も対戦したGG北海道でした。2試合目ということでスタミナの心配もあったものの、ディフェンスが機能し勝つ事が出来ました。決勝戦は、近畿の大会など過去に何度も対戦してきたGG'Sとの対戦でした。お互いを知り尽くしたチーム同士の対戦で苦戦も予想しましたが、会場のクーラーのせいか、選手は若い頃を彷彿させるようなプレーで、試合の主導権を握ったまま試合が進み、優勝する事が出来ました。

日本リーグ経験者と試合が出来るのもこの大会に出る楽しみのひとつです。来年も、もっともっとたくさん練習をして、強いチームと優勝争い出来るように頑張りたいと思います。

最後になりますが、日本ハンドボール協会マスターズ専門委員会の皆さま、愛知・豊橋ハンドボール協会の皆さま、大会運営等で大変お世話になりありがとうございました。

男子優勝
順位決定型《赤グループ》

IMPAL with T



選手兼事務担当
大野 順也

はじめに、第24回全日本マスターズハンドボール豊橋大会開催にあたり、大会運営にご尽力頂いた日本ハンドボール協会及び、愛知県ハンドボール協会・豊橋市ハンドボール協会の関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

IMPAL with T（桃山学院高等学校OB主体）とは、OBが立ち上げたハンドボールブランドを応援すると共に、恩師である高橋先生のイニシャルをつけたのが由来です。発起人である中村誠司主将のもとに集まったチームで、現役時代に全国優勝出来なかったメンバーもいる中で夢を実現させるべく、高橋先生がジュニアや学生選抜で指導したメンバーも含め全国から集まり、出場に至りました。（チーム母体は、社会人チームのボンチフェローズOBで結成されており、ホームページ（http://bonchi-hcosaka.com/）も運営し、ハンドボールやビーチハンドボールの普及活動も行っております。）

今大会には、元実業団選手（大同特殊鋼市原選手、トヨタ車体野村・清水選手、本田技研工業羽賀・池辺選手）5名と、元韓国代表金南均選手を軸に、芝本選手・池田（真）選手、GK田端選手・藤田選手、中野（陽）選手・元村選手・野田選手・大野、マスターズ元年である小澤・西野選手、GK中村主将兼選手、これらのメンバーを高橋精一監督兼選手が采配し、念願の初優勝することができました。メンバーで偶然にも、2003年アテネオリンピックアジア予選（神戸大会）で戦った元日本代表選手（野村・池辺・羽賀選手）と元韓国代表選手（金南均選手）が、13年間の時を経て一緒にプレーできたのも、このマスターズ大会があったからと考えると、改めて素晴らしい機会を頂いたことに感謝申し上げます。今後につきましても、生涯スポーツとして継続的にマスターズ大会に参加できるよう、引き続き各選手・役員のご家族ご友人、また練習場所を提供して頂いている桃山学院高等学校の木村雅俊先生のご協力頂き、活動していきたいと思います。

最後に、対戦した全てのチーム、ジャッジ頂いた審判の方々、また今大会の為にご尽力頂きました関係者の皆様には、改めまして感謝申し上げます。

女子優勝
順位決定型

微炭酸



主将
多田 貴代子

歳も歳ですから～～『微妙に弾ける』というチーム名『微炭酸』。去年は別チームにて個人的に連覇を逃し悔しい思いをしました。今年はその悔しさを跳ね飛ばすぐらいのお笑いメンバーを筆頭に新たにメンバーも加え今大会に乗り込みました。メンバーそれぞれの役割を果たしベンチも子供も1つになって優勝という結果を出せ、チーム全員最後まで笑いで大会を終えることができました。というわけでメンバーの喜びの声となります。

橋本→笑顔の絶えない試合ばかり！楽しいハンドボール最高！

寺中→歯茎が乾くぐらい、笑いっぱなしの楽しい大会でした。BTS最高！

川田→年に一回の祭典！ウチらBTSはハンドボールも笑いも金メダル級！私の肩幅も金メダル級！

塚本→爆笑ハンドボールで優勝！楽しいハンドボール最高！

小池→ハンドは勝つまで！飲みは吐くまで！とことんやりますBTS!!

増田→みんな好きだな～ハンドボール！最高だぜ！！

山路→よく食べてよく飲むよ！ BTS最高！ヤッター！

道越→優勝最高！いつもはふざけているけどやるときゃやりますBTS ！来年も優勝だー！

松本→よく笑いよく喋るだけじゃない！BTS優勝！バンザイ！！

池内→優勝ばんざい！来年こそはユニフォームブカブカになりますように！！

多田→楽しみながらのガチ勝負！！歯茎乾くほど笑う前代未聞の後輩にあっぱれ！優勝ヤッター！！

川村→うちのチーム強いな～ BTSに入れてくれて優勝してくれてありがとーーー

今大会を運営していただいたスタッフの皆様ありがとうございました。また来年！連覇というプレッシャーを笑いに変えてコートに立ちたいと思います。

大会補助員に参加して

豊橋市立前芝中学校2年　北河 亮人

第24回全日本マスターズハンドボール豊橋大会の補助員として、オフィシャルなど大会会場に関わる仕事をさせていただき、とてもよい経験ができました。一番印象に残っているのが、ご年配の方々も楽しそうにハンドボールをやっていたことです。正直、見ていると少し心配になることもありましたが、ボールさばきやフォーメーションなどしっかりと試合をしていたので、すごいと思いました。

僕の父も選手として出場していました。父は、大会一週間前くらいから、夕方に走り込みをしていました。大会一日目は、父がシュートを決める場面を見ることができ、とてもうれしかったです。でも、大会二日目になると、さすがにへとへとになっていました。やっぱり体力は大事だなと感じるとともに、心の底からハンドボールを楽しんでいる父の姿を見て、僕もこれからも部活動をがんばっていこうという気持ちが高まりました。



第24回 日韓中ジュニア交流競技会

参 加 国：日本（男子・女子）、韓国、中国
期　　日：2016年8月23日(火)－29日(月)
競技会場：中国・浙江省寧波市　寧波市鄞州体育館

最終順位
[男子] 優勝：日本　2位：中国　3位：韓国
[女子] 優勝：日本　2位：韓国　3位：中国

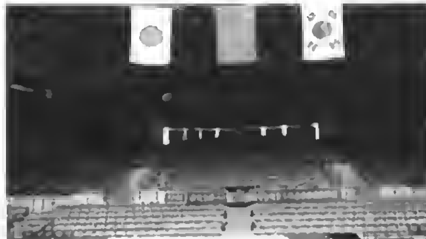
総監督　船木 浩久
（全国高体連専門部委員長）

本競技会は、1993年日本の福島県で第1回大会が開催され、今回で24回目となりました。今回は中国・浙江省寧波市において8月23日(火)から29日(月)まで開催されました。日本選手団は11競技に243名、ハンドボール競技は全国から選抜した選手28名、全国高体連専門部から役員4名の32名が参加しました。

8月22日（月）16時までに宿舎の成田エクセルホテル東急に集合予定でしたが、台風11号の影響で交通網が乱れ、全員が揃ったのは24時を過ぎていました。なお、夕方の指導者ミーティングは予定通り行われ、支給物品受取並びに明日からの行動等についての連絡がありました。

8月23日（火）ホテルを出発し、成田国際空港から上海浦東国際空港へ、空港から宿泊先のPan Pacific HOTELまで約3時間半バスで移動しましたが、まず驚いたのはパトカーが先導し、進行方向の信号が全て青だったこと。これは競技会場へ移動する際も同じでした。また、ホテル・競技会場への出入りの際、手荷物・身体検査があり異例の対応で緊張感を感じました。9月4日から杭州でG20サミットが開催されるため警備が強化されているとのことでした。2つ目は移動途中、海を横切る37㎞の大橋を渡ったこと。スケールの大きさに中国の広さを感じました。夕食後ミーティングを行い中国での過ごし方・注意事項等の確認をしました。

8月24日（水）午前、競技会場となる蘇州体育館に移動し練習しました。午後、ホテルにて代表者会議・競技別指導



者ミーティングが行われ、翌日からの試合方法・ユニフォーム等の確認を行いました。夕方、寧波文化広場で開会式、各国団長の挨拶、各国選手代表による宣誓がありました。エンディングの「寧波物語」第一章「金色のトーチム」、第二章「江南印象」、第3章「活気溢れる東アジア」の舞踊・ダンスパフォーマンスは素晴らしく感激しました。

8月25日（木）からの試合は、蘇州体育館を会場に日本・韓国・中国の総当たりで行われ、成績は男女とも1位と結果を残してくれて満足です。なお、試合結果詳細については、監督・コーチ・選手から別途報告があるので省略します。

27日（土）は、競技会最終日、中国戦を終えホテルで夕食後、コンベンションセンター1号館でフレンドシップ交流会が開催され、3ヶ国選手団代表による歌・ダンスパフォーマンスなどが披露され交流会を盛り上げました。なお、日本からは卓球・サッカー・ラグビーの3チームが練習の成果を発表してくれました。

28日（日）は、世界文化遺産都市である寧波市の有名な文化財を訪れました。午前中は「天一閣」（昔の図書館）、



午後は「寧波博物館」（デザインが世界的に有名な建築物）と中国7000年の歴史の長さと奥深さを感じました。夕食後、ホテルを出発し、上海の宿舎へ移動しましたがハードな1日となりました。

29日（月）朝、ホテルを出発し、上海浦東国際空港から中部国際空港へ、昼過ぎに帰国しました。

今回、日本代表として参加した選手達は、男子黒島宣昭コーチ、女子本田眞吾監督・中山学コーチ指導のもと、如何に戦う集団になれるか、限られた短い時間の中で戦術や個人の役割等を確認しました。今回、国体ブロック予選と日程が重なり、直前合宿が組めず厳しい状況でしたが、同じ目標に向かって練習することによって、短い期間でまとまりのある集団になってくれました。日本代表として恥ずかしくない戦いをしてくれたと思っています。選手たちの順応力の高さと男子：寺島健太君、女子：相澤菜月さんのキャプテンシーを感じました。今回も、韓国の技術の高さ、体幹の強さは見習う必要があり、中国の大型化にも対応していかなければなりません。男女とも日本なりの強化がそして、アウェーの笛にも負けない精神的な強さが必要だと改めて感じました。来年の日本（茨城県）開催に向け、結果が残せるように今後取り組んでいきます。選手は、この貴重な国際大会の経験を活かし、次の舞台で活躍してくれることを期待します。

大会の参加に際しては、4月大阪での選考会に協力頂いた先生方、並びに、選手を派遣頂いた各校の監督、そして多大なるご支援とご協力を賜りました関係機関の皆様に心から感謝を申し上げます。今後とも、全国高体連活動へのご理解とご支援をお願いしまして大会参加報告と致します。

男子チームコーチ　黒島 宣昭
（興南高校）

今回、第 24 回日中韓ジュニア交流競技大会の選手選考会を本年度 4 月 23 日（土）～ 24 日（日）に大阪府堺市家原大池体育館において、各ブロックより推薦を受けた男子 62 名の参加で、大阪府高体連専門部の先生方のご協力を頂きまして、体力測定・面接・基本練習・紅白ゲームを通して各ポジションの技能・技術など、取り組む姿勢を考慮して選考しました。その選考委員として、北中弘規（金沢中央）岩本明（浦和学院）飯田一郎（近江兄弟）黒島宣昭（興南）の 4 名で代表選手 14 名を選考しました。

大会への準備としては、昨年同様に、事前合宿を行う予定でありましたが各ブロック国体予選等に重なり調整が難しく実施できませんでした。中国（浙江省）現地に入ってからの公式練習日程での調整となりました。非常に短い準備期間でとても不安ではありましたが、DF の確認として 6：0 ディフェンスを主体に変則 4：2 やクロスアタックを重視すること。ゲームの流れによって 3：2：1 ディフェンスを取り入れることを確認する。OF は、個人能力が高い選手が多いこともあり、1 対 1 を重視して 2 対 2 の攻め、更に 3 人目、4 人目の動きを合わせ状況判断を活かして強い気持ちで攻めることを確認して臨みました。

■ 8 月 26 日（金）
日本　44（21-11、23-7）18　韓国

【得点】本田 7、大村・松井 5、安永・鈴木・渡慶次 4、寺島・山本・戸井 3、橋口・末岡・山崎 2

初戦の相手は韓国。今回は、前日に中国ー韓国戦を観戦することで対策ができて臨むことが出来たことが良かったと思います。立ち上がり日本は、6：0DF で対応する。開始早々、渡慶次（興南）のミドルシュートが決まり良い滑り出しができました。その後、山崎（市岐阜商）の速攻、大村（市川）のミドルシュートが決まり指導権を握る。DF では、相手のエースを厚くマークしてサイド勝負に持っていき相手のミスをつないで、鈴木（藤代紫水）本田（大分）の速攻、また、本田から安永（博多）へのスカイプレイなど多彩な攻撃で点差を広げ前半を 21 対 11 で折り返す。後半、最後まで気持ちを切らず粘り強く守る事を確認してスタート。DF が良好で速攻の展開に持っていくことができました。常に日本のペースでゲーム展開し終わってみれば全員得点で勝利を収める。

■ 8 月 27 日（土）
日本　34（17-16、17-9）25　中国

【得点】鈴木 8、大村 5、安永・寺島・渡慶次・本田 3、山本・橋口・山崎 2、末岡・山崎・松井 1

優勝の懸かった一戦。昨日の韓国戦からチーム状況は良好でモチベーションも高く良い雰囲気で臨むことができました。6：0DF でスタート。鈴木（藤代紫水）の 2 連続速攻が決まり良いスタートを切る。しかし、中国も高さのあるロングシュートで対応。また、ポストのパワープレイを守ることができず警告や失点を許す。15 分過ぎ DF を 3：2：1 に変えることで相手のリズムを崩すことができました。そのミスに付け込んで、山本（浦和学院）のミドルシュート、寺島（興南）のポストシュートで追加得点し前半、17 対 16 の 1 点リードで折り返す。

後半、スタートも 6：0DF で対応。10 分までは一進一退の攻防が続く、その苦しい場面で、GK 平尾（近江兄弟社）高橋（法政二）の二人の好セーブがありピンチを救う。その流れから、松井（横浜創学館）の速攻、橋本（大分雄城台）戸井（釧路市立北陽）のポストシュートなどで加点する。20 分過ぎに相手の動きが鈍くなりかけてきた場面で日本チームは集中力を切らすことなく、DF・OF で頑張り全員出場、全員得点の 9 点差で優勝を飾る。

最後になりますが、選手全員が韓国・中国戦との対戦を経験できたことは、今後、彼らのハンドボール人生に大きな財産となり次へのステップでより一層の努力はもちろんのこと、益々、精進して活躍することを楽しみにしています。

毎年選考会を開催して頂いています大阪府高体連の皆様方にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

男子主将　寺島 健太
（興南高等学校）

8 月 23 日に各地域から集まった代表で、中国へ向かいました。今年は、代表のメンバーで事前に集まり練習をする時間がなかったため、現地の会場での少ない練習時間の中で DF のシステムや OF の確認などを合わせていきました。宿舎では、みんなで同じ部屋に集まりお互いに仲を深めました。

26 日の韓国戦では、前日に行われた中国と韓国の試合を観戦したため韓国のデータを分析でき、また毎年、韓国には負けているため今年こそは絶対に勝つという強い気持ちで試合に臨むことが出来ました。前半から、6-0 ディフェンスがよく機能し、守って速攻で韓国から点差を離すことができました。後半も、みんなが気持ちを切らさずに、より勢いをつけたため、さらに点差を離し、全員得点で韓国に勝利することができました。

27 日の中国戦では、このメンバーでできる最後の試合であり、またこの試合に勝てば 1 位が決定するため非常に気合いが入っていました。しかし、中国は地元開催とあって試合の出だしから非常に勢いがあり、なかなか自分たちのペースが掴めないまま 1 点リードで前半を終えました。後半は、自分たちで盛り上げて

DF を中心に相手のミスを誘い徐々に点差を離して、この試合も全員得点で勝つことができ、男女共に 1 位という結果で終えることができました。

7 日間という短い間でしたが、試合を通して海外のレベルを感じることができ、日本とは違った雰囲気を味わえて、非常に良い経験に繋がりました。また、この経験を活かして大学やもっと上のカテゴリーで活躍し、ステップアップできるように日頃のトレーニングに励んでいきたいと思います。

この7日間、とてもよい環境で過ごし、試合ができたのも団長並びに選手を指導してくださった監督やコーチ、通訳の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

男子副主将　本田 悠也（大分高等学校）

この度、8 月 23 日から 29 日までの 1 週間中国で行われた日中韓ジュニア交流会に各地域から選ばれた日本代表チームとしてこの大会に参加しました。その中で私は副キャプテンを任されることになりました。1 週間という短い間ですが、どのようにしたら良いチームが作られるか考えました。初めて顔を合わせるメンバーという事もあり、一人ひとりがどのような考え方をしているかコミュニケーションを多くとりました。そして仲を深めていくことが大切だと感じ、ホテルでも全員で食事をとり、1 つの部屋に集まり仲を深める努力をしました。練習でも時間があまりとれなくて限られた時間しかなかったのですが、お互いにコミュニケーションをしっかりとりながら調整することができチームがまとまっていきました。

今年は運良く、前日に韓国と中国の試合が観戦できました。ミーティングでは自分たちがすることを明確にし、入念な準備をして韓国戦に臨みました。

初戦の韓国戦では、前日のミーティングで出した課題を一人ひとりが意識してすることができ、前半からリードを奪い後半も良い流れのまま勝利することができました。またコートプレイヤー全員が得点をとることができ、良い雰囲気で試合を終えることができました。

翌日の中国戦では勝てば優勝というプレッシャーと相手の開催地という不安もありながら迎えた試合でした。前半も自分たちのリズムが取れないまま、一点リードで折り返しました。後半はベンチメンバーとコートに立っているメンバーが一体となり、盛り上げながら試合を運ぶことができました。守って速攻で点差を離していき、終わってみればこの試合もコートメンバー全員得点を決め勝利しました。苦しい時間帯もありましたが、全員でまとまって勝った瞬間はとてもうれしかったです。また男女ともに 1 位で終えられたことは本当に良かったと思います。

この大会を振り返ってみると 1 週間という短い期間でしたが、とても多くのことを学ぶことができました。そのなかでも海外で試合ができたことはとても良い経験となりました。最後にこの大会に携わってくださったすべての方々に感謝の気持ちを申し上げ、上のカテゴリーでも頑張っていきたいと思います。

女子チーム監督　本田 眞吾（神奈川県立上鶴間高等学校）

まずは始めに、第 24 回中・日・韓 Jr. 交流競技会に際し、選手選考会を本年度 4 月 23 日（土）、24 日（日）に大阪堺市家原大池体育館で行いました。参加人数女子約 40 名を対象とし、体力測定、面接、基本技能、ゲームを行い、各 14 名を選考させていただきました。選考に当たりご理解、ご協力いただきました各学校の顧問の先生方、大阪高体連専門部前田委員長他、多くの専門部の先生方、選考にあたられた選考委員の先生方には厚くお礼申しあげます。

本年度は、各ブロックともに国体予選等が行われ、事前の合宿が組めない状況で 22 日（月）前泊ホテルで顔を合わせることとなりました。合宿による個々の選手のフィジカル、メンタル、テクニック等を十分掌握できないままに大会に臨むスタッフの厳しさは期待よりは不安が勝っていました。また、22 日（月）の早朝は台風の襲来に会い、全員が集合できた時には 23 日（火）出発の日となっていました。あの台風の中で集合できたことは幸いでした。その日の午後に中国上海空港に降り立ち、バスで 3 時間強揺られ、夕刻近くに開催地寧波市（浙江省）に入りました。各選手ともに移動の疲れは多少はありましたが、極端に具合の悪くなる選手はなく、まずは一安心でした。

翌日 24 日（水）練習：男女ともに 1 時間ずつを 2 時間で男女の練習として試合会場で行いました。会場はラバーコートで 6m 内オレンジ、その他はブルーで感じのよい会場でした。練習では、予想通り DF 面での不安が大きく、スタッフの戦術を悩ませました。

大会は、日本男女、中国男女、韓国男女の男女各 3 チームでのリーグ戦となりました。試合日程の変更、訂正で惑わされることもありましたが、選手に動揺はなく試合に臨めました。

各チームの特徴としては、韓国は単独チーム 8 名で大会に参加。№ 23 センターを中心に№ 10 のポスト、№ 17 フローターが得点源でそのほかのメンバーサイドプレーヤーの堅実なプレーも気の抜けないものでした。DF は特に変速のシステムはなく 6-0 を中心に組み立てていました。

中国は選抜チームで長身の選手（170 級）を揃え大型でした。パワー、スピードともに昨年よりは力強いのもがありましたが、韓国、日本とは力の差はあったと考えています。体の大きさ、高さに関しては脅威となるものでした。速攻、ミドルシュート中心に展開させ、ポスト、サイドを使う。DF は、長身ゆえに 0-6 の一線を引き、間を守りチャンスをうかがうというような状況でした。

■ 8 月 25 日（木）14：00 ～
中国　31（11-20、20-20）40　韓国



■8 月 26 日（金）14：00～
日本（選抜）36（15-14、21-14）28 韓国

日本のスローオフから始まり、両チームともに硬さが目立つ立ち上がり、開始直後に中山のミドルが韓国ゴールに突き刺さり幸先のよい得点となりました。韓国№ 23 ポイントゲッターのセンターの動きをとめることがポイントとなる試合ですが、直ぐに得点され 1 対 1 となりました。その後、DF と GK 清宮の合わせを確認している間に、南がカットイン時に負傷し苦しい時間帯となりましたが、15 分で 9 対 9、以後川上の連続 2 得点、西村のポストシュート等で 20 分過ぎ 12 対 11 で 1 点リード、その後もお互いミスを含めながら得点を重ね、前半 15 対 14 で折り返しました。

ハーフタイムでは前半の反省を含め、韓国 OF ポイントを確認し後半に入りました。立ち上がりミスが目立つも 1 分過ぎ西村の得点で、この試合ようやく 2 点差としました。5 分で同点とされるも相澤の切れのあるプレーから 2 得点、10 分で 21 対 19 となりました。そこから日本が点数を重ね 12 分には中村のカットインで 4 点差、14 分では安田のカットインで 26 対 22 と突き放しにかかりました。15 分過ぎから DF が機能し、宝田のナイスセーブもあり 20 分で 31 対 23 と突き放しました。大会前に心配されていた DF が機能し、その後も、韓国を苦しめ、速攻で得点を重ね、髙木のミドル、相澤のダメ押し点を決定打とし 36 対 28 で勝利しました。

■8 月 27 日（土）13：30～
日本（選抜）17（9-9、8-13）22 中国

日本先攻の始まりは、お互いを探るようにゆっくりと試合が始まりました。ボールが手につかないギクシャクした中で、1 点目は中国№ 8 にサイドシュートを決められるも、日本は、センター相澤のクロスから中山のミドルシュートで応戦、立ち上がり 5 分で中国に警告が 2 つ出るも 1 対 1 とロースコアの序盤戦となりました。日本は中国の高さ、幅に攻めあぐね 10 分で 3 対 4、15 分で 5 対 5 とお互い我慢の攻防となりました。15 分過ぎから中国が加点し 25 分で 7 対 9 と 2 点差となりました。以降じっくりと攻め得点し 9 対 9 で前半を終了しました。ハーフタイムでは、気を抜かないように個人の役割をしっかりと果たすようミーティングし、一人ひとりが声を掛け気持ちを強くし後半に望みました。

後半立ち上がり西村のポストシュートで 10 対 9 とし、宝田のナイスセーブもあり波に乗るかと思われた 5 分過ぎから、中国の DF から速攻、№ 20 センターのカットイン、7mT 等で 11 対 12 とリードされ、その後も日本の OF が中国の大型 DF に戸惑い、思い切ったプレーが出来ず、それでも 20 分までは 15 対 16 のスコアで踏ん張りました。20 分過ぎに 7mT をとられ 15 対 17、№ 20 にステップシュートを不意打ちされ、№ 8 のサイドシュートで残り 5 分で 16 対 19 と 3 点のリードを追う形となりました。26 分過ぎにタイムアウトを取り仕切りなおし。しかしながら、日本選手の中国 DF に対する突破口が最後まで見つからず、中国の DF から速攻に 22 点目を献上し、トータル 17 対 22 で力及ばず惜敗となってしまいました。

結果は、日本、中国、韓国ともに 1 勝 1 敗の三つ巴で、得失点差は日本＋ 3、韓国＋ 1、中国－ 4 で日本が 1 位となることが出来ました。本当に、これまで携わっていただいた多くの方々に心から感謝を申し上げます。以上、試合報告とさせていただきます。

また、今大会全般として、中国での戦いということで、特に食については十分な注意を払うことを念頭において選手団には意識付けして臨みました。特に水については、十分な話をし理解を促しミネラルウォーター以外は使用しない。歯磨きにもミネラルウォーターを使う徹底振りで、意識は高かったと考えています。食事は 3 食ホテルのバイキングで、特に油ものには注意を払うこととしていました。日本選手は、多くの食べ物に箸を付けてはいましたが、味が会わない、ご飯がまずいなど十分な栄養補給が出来ない状況もあったように考えられます。しかしながら、体調を大きく崩す選手はなく、それなりの状況では大会に臨めたことが最終的な結果につながったと考えて

います。

最後に、この大会に選出され、出場し、貴重な経験をされた選手の皆さん、これからもハンドボールに携わる人として、来年に向けて、また、東京オリンピックに向けて精進されることを祈念して結びの言葉､贈る言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

女子チーム主将　相澤 菜月（茨城県立水海道第二高等学校）

この度、中国で開催された日韓中ジュニア交流競技会に参加させてもらい沢山のことを学ばせて頂きました。今回は事前合宿のない状態で大会に参加し、試合前の２日間での合わせとなりました。短い時間の中でもどのように合わせるのか、試合に臨むのかを話し合いながら練習をしました。しかし、時間が短いため合わせは完璧とはいえない状態で不安を抱えたままスタートしました。

韓国戦では、前半相手のプレーの感覚を掴むのに時間がかかり自分たちの雰囲気で試合は出来ていませんでしたが、前日のミーティングで話した通りになり、後半は「ギアを上げていこう」と確認しました。後半15分過ぎ、少しずつですが自分たちのペースを掴み、点を離すことが出来ました。気を抜けない時間帯は多くありましたが、それでも粘り36対28で勝つことが出来ました。９年ぶりに韓国に勝つことができ、嬉しい限りです。

チームもまとまってきて息も合ってきました。しかし次の中国戦では、少し苦手意識もあり、大きい選手に攻めあぐみディフェンスではパワー負けをし、7mTが多くありました。前半は耐えていましたが、後半中国のペースになると抑えきれず点差がつきました。ラストスパート高めのディフェンスで仕掛けましたが追いつかず22対17で負けてしまいました。

今回は開催国出場がなかったので２試合となりましたが、いつも敵である人が同じチームとして戦えることはとても良い刺激となり大きな財産となりました。小さい身体でも戦い抜ける技術を習得し、またチャレンジできる機会があれば挑戦したいと思います。短い間でしたが、本田先生、中山先生と仲間14人と同じコートで戦えたこと、負けたはしたものの１位を獲得できたことはとても嬉しく思います。この大会に関わった皆様に感謝し、学んだことを生かしてこれからも頑張りたいと思います。ありがとうございました。

女子チーム副主将　石川 莉子（京都府立洛北高等学校）

この度、中国で開催された日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。

私は、昨年度の日韓中ジュニア交流競技会にも参加させて頂き、今年と昨年の大きな違いは事前合宿がなかったことだと感じています。試合前に２日間の練習時間はありましたが、はじめて一緒にプレーする人ばかりで本番しっかりと合わせることができるのか、不安を抱えたまま試合の日を迎えました｡韓国戦では、後半途中まで点の取り合いが続きましたが、皆でその時間帯を乗り越えるとすっと点差が開いてきて、油断できない緊張感はありましたが、その中でも試合を楽しむことができました。中国戦でも後半途中まで点の取り合いが続いていましたが、韓国戦とは違ってリードされる展開が多く、私達が粘り負けしてしまいました。中国に負けてはしまったものの、得失点差で優勝という成績を残すことができ、さらに男女そろっての優勝は９年ぶりということで私達にとって今後の大きな自信となりました。はじめにも言ったとおり、事前合宿がない状態でスタートし多くの不安を抱えたまま試合当日を迎えることになりましたが、個々のスキルの高さと初めてのチームとは思えないほどのチーム力、そのチーム力をつくりだせたコミュニケーション能力のおかげで、このような成績を残すことができました。私自身は今大会であまりチームに貢献することはできませんでしたが、味方からの良い刺激をうけながら国際大会を経験させて頂けたことは、今後に繋がる良い経験となりました。大学になってもハンドボールのことを一番に考え、常に上を目指して練習に励み、またこのような場で戦える機会を頂けたらレベルアップした自分を見て頂けるよう、がんばっていきたいです｡最後になりましたが、本田先生、中山先生と仲間14人でチーム一丸となり、短い期間ではありましたが優勝という素晴らしい成績を残せたことを嬉しく思います。今回の大会に関わって頂いた方々に感謝の気持ちをもち、この経験を今後に活かしていけるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

第８回日韓小学生ハンドボール親善交流会（派遣）



（公財）日本ハンドボール協会 小学生専門委員会 委員長　**竹内 貞明**

期日：平成 28 年8月 18 日から 22 日
場所：大韓民国　務安郡
　　　務安総合スポーツパーク室内体育館ほか

■スケジュール

移動日（出国）	平成 28 年8月 18 日
親善試合実施日	平成 28 年8月 19 日
合同練習会実施日	平成 28 年8月 20 日
観光、買い物	平成 28 年8月 21 日
移動日（帰国）	平成 28 年8月 22 日

■親善試合日及び結果（平成 28 年8月 19 日）

親善試合結果（試合時間は 20－10－20）

［女子］09 時 30 分試合開始
①日本（山口選抜）　6－16　務安小等学校

［男子］11 時 30 分試合開始
②日本（山口選抜）　4－15　務安小等学校

［女子］15 時 30 分試合開始
③日本（山口選抜）　13－25　韓国（５年生選抜）

［男子］16 時 30 分試合開始
④日本（山口選抜）　6－19　韓国（５年生選抜）



8月 18 日から 22 日まで４泊５日の日程で、大韓民国務安（ムアン）郡において、第８回日韓小学生親善交流（派遣）が行われました。

18 日は午後広島空港から出国し、仁川（インチョン）空港到着後、約４時間のバスの移動で韓国の南に位置する務安郡に到着しました。午後８時近くの到着でしたが務安郡の関係者及び韓国協会、務安協会関係者、交流選手とともに歓迎式及び夕食会を開催していただきました。

19 日は朝から 30 分程度のアップ時間で親善試合に入りました。日本（山口選抜）は「松やに」になれる間もなくゲームを行ったために、なかなかボールが手につかず、パス、キャッチ、シュートミスが多いように感じられました。務安小等学校チームは開催地の小学校単独チームで、６年生を含む現活動チームであり、男女とも長身でパワーのあるロングシュートが印象的なチームでした。また、DF は身長の高さを生かした６－０のため、小柄な選手が多い日本（山口選抜）は、その壁に苦しみ、得点を決めるチャンスがなかなかありませんでした。

韓国チーム（５年生選抜）は韓国全土から選抜｛夢ノ木（クンナム）財団・９年目｝された男女各 20 名で、主力選手のハンドボールセンスは抜群でした。特に女子は平均的に身長が高く、ダイナミックなハンドボールを展開する選手が多くみられました。男子は切れのあるフェイントとオフザボールで動くタイミングがとても素晴らしく、得点を量産していました。

20 日には、会場を男女２か所（１か所は廃校になった高校の体育館を使用）に分けて韓国指導者指導のもとで合同練習を行いました。午前中はストレッチ、風船使用のトレーニング、パスを繋ぐ鬼ごっこ、パス、０ステップフェイント、シュートバリエーション、バックステップシュート等を行いました。午後からは、１対１のフェイントからのシュートの後、10 分間のミニゲームを４本行って練習日程を終了しました。

日本（山口選抜）と韓国の実力差は若干あるものの、最終日の午後から行ったミニゲーム（10 分４本）では得点差はなく、子供達の頑張りを含め、２日間での成長を見てとることができました。

21 日は韓国の最南端観光地、海南頭論山（ヘナンディリュウサン）ケーブルカー及び徒歩にて登山し、昼食後は海南（ヘナン）恐竜博物館を見学、木浦（モッポー）Ｅ　マートにて買い物をして全日程を終了しました。食事会や買い物をする時には、日韓の子供たちは言葉が通じない中、必死に身振り手振りで表現している姿を見て非常に微笑ましく、ハンドボールを通じて交流の輪が広がっていることに喜びを感じました。

22 日は早朝４時に宿舎を出発し、正午頃広島空港に無事帰国いたしました。

第８回日韓小学生親善交流に際し、昨年の受入れ及び今回の派遣にご尽力いただきました山口県協会に心より感謝申し上げます。また、派遣期間中、慣れない食生活に戸惑う選手の体調管理などをしっかりサポートしていただいた山口選抜スタッフに改めてお礼申し上げます。

現地にてお世話になりました務安郡、韓国協会及び務安協会の皆様にこの場を借りて感謝し上げ、親善交流事業の結果報告といたします。









from IHF REPORT

「スーパーグローブ」(IHF Super Globe) は、毎年カタールのドーハで開催される国際ハンドボール連盟主催のクラブ世界一決定戦である。1997 年に初めて開催され、当時は不定期で開催されていたが、2010 年以降はカタール・ドーハで毎年開催されている。









2015 スーパーグローブチャンピオンは、9 月 8 日、決勝戦が行われ、ミケル・ハンセンやニコラ・カラバティッチなどの超スーパースターを擁するパリ・サンジェルマンハンドボール (FRA) を 29 対 28 の 1 点差で破った Fuchse ベルリン (GER) が 2 連覇を達成した。

また、この大会では審判や関係者を支援するために使用される新しい「ビデオプルーフテクノロジー」が公式テストされた。このシステムは、ドイツの会社により作成され、すべての試合の詳細な状況を取得するためフィールドに配置された 12 台のカメラを使用した。今後の展開を注目していきたい。





from IHF NEWS

2015年IHF Photo contestはマケドニアとフランスが受賞

国際ハンドボール連盟は 2016 年 8 月 30 日に「photo contest」の結果を公表した。

左の画像は、カタールでの 2015 年男子世界選手権イラン対マケドニア戦、空中で横たわってプレイするマケドニア選手デヤン Manaskov を捉えたスナップ。マケドニアのデニス Dukovski 氏によって撮影された。





右の画像は、フランスの写真家ローラン・テオフィル氏の撮影。EHF チャンピオンズリーグの試合で、スペインのアレクサンドリア・カブラルバルボサ選手を撮影した写真が選ばれた。

過去には、日本から応募した写真が「IHF Photo contest」に選ばれた事もある。毎年開催されており、我もと思われる方は応募されては如何でしょうか。

～危機感を持った改革を～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本リーグが今、熱を帯びている。男女とも例年にも増して実力が接近、順位争いが熾烈だ。そうした現状はファンサイドからすれば大歓迎と言ったところ。常に緊張感の漂うアリーナは魅力的に映ることだろう。

それはさておき、バレーボール界からショッキングなニュースが聞こえてきた。Ｖプレミアリーグを衣替えした「スーパーリーグ」構想を打ち出したのだ。

日本リーグ時代を含めＶリーグは常に大ぜいのファンが会場を埋め尽くしてきたが、最近は観客の減少傾向が続く。加えて、男子がリオ五輪出場権を逃したことからさらに追い打ちをかけられた危機感もあるのだろう。

リーグ誕生から今年50年。それを機に新たなリーグへの移行を模索したのではないだろうか。「Ｖリーグは存亡の危機に立たされている」との認識を示し、新リーグ構想への要因として挙げているのは、歯止めのかからない競技者数の減少、ＴＶ放送の限界化、大会運営者の世代交代の停滞、スポーツイベントとしてのマンネリ化などだ。

なかでも画期的なのは、現在ほとんどが企業による実業団チームだが、新リーグ参加には運営母体がバレーボール事業のために独立した法人とした点だろう。まずはプロ化への足掛かりをつかむ構想である。

人気のサッカーやバスケットボールに引き離されるという危機感からの発想かも知れないが、いずれにしても「バレー界再興」への並々ならぬ“決意表明”である。

振り返ってハンドボール界はどうだろうか。確かに以前から観客数アップなどを叫んではいるが、なかなか成果は出ていないのが現実である。バレーボール界に倣うのでないにしても、もっと危機感を持っての対応も必要ではないだろうか。手をこまねいていては、何も前進しない。

私事で失礼ながら、最近「ハンドボールがこんなに面白いとは思ってもみなかった」という人に出会った。元来が熱烈なサッカーファンだったが、ある時、機会があってハンドボールを観戦。その時に驚いたのが「7人攻撃」だったという。「あれには自分でも驚くほどハマった」と笑いながら、せっせと観戦に通っている。

話はそれたが、潜在ファンはいると確信する。どう開拓するかであろう。リーグをどう活性化してもっとファンを惹きつけるか、英知を結集して“改革”していくべきだろう。また、全日本社会人選手権ではスコアシートが変更された。最大の変更点は得点経過のスペースが無くなった点。せっかく先人が熟慮、改良を重ねてきた“ハンドならではの財産”が消えた。改良は前進のためにするものではなかろうか。ファンの嘆きも聞こえてきた。こうしたことも含め振興・普及・発展にはいっそうの危機感があってしかるべきと思うが―さて、みなさんは…。



筑波大学
高橋義雄准教授に聞く

2020年以降を見据えたハンドボール界の改革

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、国民・民間企業における消費・投資マインドの向上、海外から日本への関心の高まりなどが予想されることから、この機会を最大限に活用し、スポーツ産業を活性化させることを目的として、経済産業省は、スポーツ庁と共同して、「スポーツ未来開拓会議」を設置した。これまでに6回開催し、スポーツ産業の振興施策について有識者を交えて議論を行い、本年6月に、同会議における議論を「中間報告～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～」としてとりまとめた。今後は、本報告を踏まえ、必要な施策については平成29年度概算要求に反映させていくとともに、各論点について検討を深め、我が国のスポーツ産業振興の戦略的な取組を示す「スポーツ産業ビジョン（仮）」を本年度中に策定する予定である。

今般、この「スポーツ未来開拓会議」の検討委員をされた筑波大学准教授・高橋義雄氏にインタビューする機会を得た。同氏は、これとは別に本年1月に（公財）日本バレーボール協会が設置した「2050年構想プロジェクト」の座長をされ、日本のバレーボールの現状を踏まえた25の提言として取り纏め、この6月に答申を出されたばかりである。

ハンドボールは2020年の東京オリンピック・パラリンピックに日本は開催国として出場するが、オリンピック開催以降の日本のハンドボール界が更に飛躍・発展するために、今からチャレンジする課題について、バスケットボールやサッカーなど他の競技団体の事例等も参考にしながら忌憚の無いご意見を聞けた。

リーグ参入チームは『独立した法人化』へ

オリンピック・パラリンピックが終わった2020年以降にそれまで積極的に関わってきた企業がスポーツから一旦は手を引く可能性もあると考えるべきである。日本ハンドボール協会は、ハンドボールに関わることが企業活動にとって相当の価値があると提示したうえで、改めてハンドボールと企業とのWin-Winの関係を構築することが大切である。取り分け、企業が重要視するのはどの競技団体でも、「日本リーグ」と「日本代表」への関心である。「日本ハンドボールリーグ」を見れば現在は実業団のチーム編成が多くなっているが、チームを親会社の子会社化、つまり「独立した法人」のチームへと進むべきである。これまでのような社内の部活動から、ハンドボールで収益を上げる「独立した法人」へと移行することができるかが、20年以降のハンドボールを決めることだろう。そのための具体的な推進に当たっては、協会組織自らが制度設計やビジネスモデルを企画・実行するか、もしくは他の競技団体での活用事例を見てもスポーツ関連代理店の外部ノウハウの導入もあり得る。これらの改革は、現場からの始動では厳しいであろうが、直近のバスケット協会の動きを見れば、トップダウンに改革を一気に展開し、必要な人材は外部から登用する必要がある。バスケットボールでは、「B.LEAGUE」（全36チーム）をスタートさせることに成功した。ハンドボールもバスケット協会の動きを参考にすることも一考であり、何れにしても、危機感を共有し、早急な改革が求められる状況にあると推察し、スポーツ全般から取り残される危惧を払拭しなくてはならない。何度も言うがそのためにも、スポーツの価値、ハンドボールの価値を創造し、企業やスポンサーに認識させなくてはならない。2020東京五輪では開催国として必ず出場できるのであり、ハンドボール日本代表にもかなりのスポンサーがつくこの機会を協会としては上手く利用し、2020東京五輪以降にも引き続きスポンサーとして継続する環境を整備していかなくてはならない。

日本代表の強化は必須

他方、なんと言っても競技団体の最大の顔である「日本代表」の強化は必須である。強化のためには、従来はタブーとされてきた帰化選手の活用や、外国人枠を撤廃し外国籍選手の登用により国内試合のレベルを引き上げることも重要である。ハンドボールの盛んな欧州からの帰

化選手の登用では、中東勢の対応が際立っているが、ハンドボールを含めた競技界全体を見れば大きな潮流ともなっており積極的に対応することも重要である。又、外国人枠論議に必ず持ち出される「日本選手が試合に参加できず競技力の向上に繋がらない」との固定概念も含めて見直しの時期に来ている。前述した「法人化」により、選手の雇用形態や契約方法も多様化され、更にはチーム間の選手移籍や新人発掘も活発となることでチーム間の戦力も均衡し、これまでの大差のゲームが減る一方、観客にとってもスリリングな試合が展開され、観客にとっても見るスポーツとしての魅力が発揮され観客数の増大にも貢献するであろう。以上の取組み等で「日本代表」の競技力が向上すれば露出度もあがり、TV、マスコミ、インターネットなどにも取上げられる機会が増え、日本代表試合の放映権や代表選手の肖像権など新たな収益源の掘起こしにも繋がり、ひいては協会自体も「コストセンター」から「プロフィットセンター」へと変われる可能性も出てくる。

時代の環境はインターネットとTVの融合

又、注目しなくてはならないのは、世の中の環境の変化にある。2020にはインターネットとTVの融合の構想もある。既存の地上波やBS放送では新たにハンドボールの放映時間を確保する事は大変困難であり、放映されても視聴率も低い状況では、インターネット環境を上手く活用しハンドボールの試合をネット配信できる仕組みを作ることである。直近の顕著な動きを見れば、バスケットボールでは、今年3月10日ソフトバンク株式会社が、「B.LEAGUE トップパートナー」に決定したことを報じた。ITの情報発信を駆使し一人でも多くのスポーツファンにゲームの感動や魅力を伝えていくとしている。全世界での競技登録者、国内での競技者登録人口、さらには若い世代での高い観戦意向などバスケットボールの持つポテンシャルに注目もしており、「B.LEAGUE」のトップパートナーになった。更に、サッカーのJリーグと、『Perform Group』が提供するスポーツのライブストリーミングサービス『DAZN（ダ・ゾーン）』が10年間、約2100億円の放映権契約を締結、2017年からライブストリーミングサービス「DAZN」でJ1、J2、J3を全試合生中継すると報じられている。その特徴はテレビ、PC、スマートフォン、タブレット、ゲーム機など様々なデバイスを使って、いつでも、どこでも、高画質で中継を楽しめる点にあり、全国のスタジアムにwi-fi環境整備などを推進するとしている。ハンドボールでも日本での開催試合に、多数の帰化選手や外国籍選手が活躍すれば、彼らを通じて海外のファンもネットを通じて観戦が出来るようになり、これを機として国内外への映像配信が一気に加速することも考えられる。

幅広い人材の活用

競技の普及には日本代表が強くなり、TV、マスコミでの露出度合いを高めることが最大の要件ではあるが、更には、ジュニア等の各種大会などもライブでのネット配信等も従来に増して積極的に行っていく必要がある。これには、学生やボランティアの活用で、カメラの設置などを始めとして、ライブ発信に必要なノウハウの取得や支援体制の構築等も、幅広には普及活動の基礎ともなりえる。海外には、企業人や青年海外協力隊などハンドボールの経験者や愛好家が多数いる。海外で勤務や通学などで在住されている方との連携を図り、海外のハンドボール情報を寄せて頂く仕組みづくりなども面白い。サッカー等では、サッカー協会の国際委員として委嘱し定期的な情報のアップをお願いしている。日本ハンドボール協会の国際委員として活動できるので、ボランティアであっても高い意識での行動に繋がり、更に新鮮な海外情報が取得でき、様々な分野での情報利用が可能となる。

改革は待ったなし、時間は無い

最後に、「スポーツ未来開拓会議」では、現在のスタジアム・アリーナはスポーツ産業のインフラとして不可欠な観戦者の視点や収益性の観点が乏しく、今後はスポーツを成長産業として活性化させるための核となるのはスタジアムやアリーナが鍵になるとした。一方でハンドボールは、松脂の課題もあり、アリーナのフロアの開発や、松脂の不要なボールを国際的に導入することを働きかけることも必要だろう。そして結果として、ハンドボールの試合を収益のあがる興行へと変えていかなくてはならない。残された時間は少ない。他の競技団体の事例等も大いに参考にしながら、迅速な議論と素早い行動を展開し、日本のハンドボールが国内は元より、海外からも注目される競技へと変わる事を期待している。

医療施設や介護施設、スポーツ分野など
あらゆるシーンに対応した伊藤超短波の物理療法機器

コンビネーション刺激装置

「超音波」と「電気刺激」の
2つの効果を生み出す
コンビネーション治療器。




ULTRASOUND　HI-VOLTAGE　MCR

小型電気刺激装置

「TENS」・「EMS」・「MCR」を
搭載し、場所を選ばず治療が
できる小型電気刺激装置。




TENS　EMS　MCR

小型超音波治療器

スポーツの現場の声から生まれた
片手での操作が可能な
携帯できる小型超音波治療器。



防水機能
搭載



ULTRASOUND

小型マイクロカレント治療器

いつでもどこでもセルフケアが
できる超軽量でコンパクトな
マイクロカレント治療器。




MCR

ULTRASOUND	HI-VOLTAGE	MCR	EMS	TENS
[超音波療法]	[高電圧電気刺激療法]	[マイクロカレント療法]	[神経筋電気刺激療法]	[経皮的電気刺激療法]
ミクロマッサージ効果と温熱効果により、疼痛の緩解や筋肉痛、関節痛を軽減します。損傷を受けた筋や靭帯の治療や関節可動域の改善に効果的です。	高電圧の刺激を加え、深部にアプローチします。疼痛の軽減、筋緊張や可動域の改善に対し、即効性が期待できます。	微弱な電流を流すことで、組織損傷の治癒を促進します。神経や筋を興奮させないためトレーニング後のクールダウンに最適です。	骨格筋および運動神経に電気刺激を加えて筋の収縮を引き起こし、筋力を強化します。筋萎縮の改善や筋力トレーニングなどに使用します。	疼痛の軽減を目的として、主に知覚神経に対し電気刺激を加える療法です。

測定装置

ヘモグロビン測定装置

ASTRIM FIT

採血せずに約40秒でヘモグロビン
推定値をスピード測定。
リアルタイムでコンディションを
把握できます。

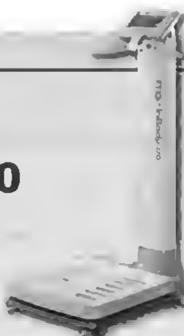


メーカー希望小売価格 398,000円(税別)
※医療機器ではありません。

体成分分析装置

ITO-InBody370

体の4大構成成分や骨格筋、脂肪、
部位別の筋肉バランスを高精度に測定。
整形・リハビリの指導や評価指標に
活用できます。



メーカー希望小売価格 948,000円(税別)
※医療機器ではありません。

がんばれハンドボール20万人会 規約改定について

公益財団法人 日本ハンドボール協会理事・「がんばれハンドボール20万人会」推進本部長　中野 利一

「がんばれハンドボール20万人会」サポート会員の皆様には、日頃より当協会の事業活動にご理解とご協力、そしてご支援を賜り誠にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

本年は、ブラジル・リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されました。しかし、非常に残念ですが、ハンドボール日本代表のオリンピック出場は叶いませんでした。４年後の東京オリンピックでの活躍を大いに期待したいと思います。そこで、サポーターとして、その間「何ができるのか」「何をしたらよいのか」を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。４年間という歳月はあっという間で、時間が十分あるとは言えません。既に男女とも新生・日本代表チーム活動がスタート致しました。サポーターの皆さんと「強い日本ハンドボールチーム」をつくるためにどのようなことをしたら効果が上がるのか、知恵を出し合い、考え、支援をしていきたいと思います。そして、東京オリンピック・パラリンピック以後、オリンピック、世界選手権に男女そろって常時出場できるJAPANになってくれるものと期待しましょう。

さて、現状の「がんばれハンドボール20万人会」について、来年度より一部内容を変更し、再スタートすることに致しました。当会は、平成11年にスタートして、20年近く経過をいたしました。その間、さまざまなハンドボールを取り巻く環境の変化等を考慮し、ここに至りました。

サポーター会員の皆様に対する特典の見直し、「観戦チケット・会員バッジ」等、その取扱いや利用方法について、地方協会の関係者の方々等のご意見をお聞きしながら検討をして参りました。

その結果を当協会理事会において「規約改定案」として提案し、了解を得ました。その上で、会員の皆様に20万人会ニュースでお知らせし、８月末まで異議申し立てを受け付けました。その結果、過半数を大きく超える皆様のご賛同を得ましたので、来年４月１日より規約を改定することとなりました。改めて変更点の詳細について以下に記載致します。

どうぞご理解のうえ、今後ともご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

がんばれハンドボール20万人会サポート会

【変更内容一覧表】

項目	現状		改定案
目的（規約第１条）	日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会、各連盟を財政支援し、もってハンドボール競技の普及発展を支援する	→	日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会の財政を支援し、もってハンドボール競技の普及発展を支援し、日本代表チームを応援する
	（新規追加）	→	通称を「がんばれハンドボール20万人会」と言う。
会員名称（規約第２条、４条）	名誉会員 特別法人会員 特別会員 グランド会員 ファミリー会員 グループ会員 ジュニア会員	→	名誉会員 特別法人会員 特別会員 グランド会員 フレンド会員 グループ会員 ジュニア会員
特典	グランド会員： 会員証、会員バッチ、年間パスポート、機関誌、20万人会ニュース等	→	会員証、会員バッジもしくは別商品のいずれかを選択、年間パスポート、機関誌、20万人会ニュース等
	ファミリー会員、ジュニア会員： 会員証、会員バッチ、観戦チケット２枚、20万人会ニュース等	→	会員証、会員バッジもしくは別商品のいずれかを選択、国際試合及びプレーオフを除く観戦チケット２枚、20万人会ニュース等
	グループ会員： 会員証、会員バッチ、観戦チケット人数分、20万人会ニュース等	→	会員証、会員バッジもしくは別商品のいずれかを選択、国際試合及びプレーオフを除く観戦チケット１枚、20万人会ニュース等

平成28年度第19回ハンドボール研究集会報告

学校体育ハンドボール検討専門委員会委員　丸井 一誠

期間：平成28年8月2日（火）、3日（水）
主催：公益財団法人日本ハンドボール協会
主管：鹿児島県ハンドボール協会、霧島市ハンドボール協会
後援：スポーツ庁、鹿児島県教育委員会、霧島市、
霧島市教育委員会
会場：霧島市農村環境改善センター、霧島市隼人体育館
実施内容：
【8月2日（火）】
開会式：12：30 － 12：50
講義：12：50 － 13：50
講師：筑波大学体育系教授　岡出美則
『学習指導要領の改訂をめぐる議論』
●現行学習指導要領の改定の趣旨
●質の高い授業を保証するシステム
●学習指導要領改訂をめぐる動き
●質の高い体育授業を実施するための方法論
研究発表：14：00 － 15：10
1「ハンドボールを教材として取り入れるまで」
伊地知正徳（霧島市立宮内小学校）
●霧島市にある日本リーグチームの「ソニーセミコンダクタ」との関わりから小学校でクラブ活動化し、学年での球技大会、隼人地区での親睦球技大会に発展していった様子を報告。
2「小学校におけるボール教具を工夫した探索的授業実践」
丸井一誠（金沢星稜大学）松田広（福山平成大学）
●運動が苦手な子を踏まえ、握りやすく怖くないボール教具を開発し、その授業実践を報告。
3「授業カード分析を通じての技術的言語活動の変化について」
小山浩（筑波大学付属中学校）
●言語力の育成を目的に、授業カードに記述した内容の分析結果や考察について報告。
4「思考力の育成に関する一考察ークラッシュボールの実践を通じてー」　信原悦治（岡山市立七区小学校）
●キーワードを意識しながら動きづくりを行った授業実践について報告。
実技研修：15：40 － 17：10
講師：東京学芸大学准教授　佐藤善人
『ボールゲームを実施する前に身につけておきたい多様な動き～アクティブ・チャイルド・プログラムの活用～』
●集合ゲーム　●ハイイハドン　●体じゃんけん
●人間知恵の輪　●大根抜き　●ムカデドッチボール
●ボール集め競争　●木とリス
交流会：18：00 － 20：00
【8月3日（水）】
授業提案：09：00 － 10：50
「ゴール型ゲームーハンドボールー」（6年）
授業者：西浩司（霧島市立宮内小学校）
●「NPO法人総合型地域スポーツクラブ霧島」と協力しての授業提案。
研究協議：10：10 － 11：00
講義：11：15 － 12：15
講師：立命館大学スポーツ健康科学部教授　大友智
「体育授業とボール運動の指導の考え方」
●これまでの体育学習
●現行の体育学習の考え方
●ボール運動の指導の考え方
●育成すべき資質・能力
閉会式：12：15 － 12：30

おわりに

昨年、秋田大学の佐藤靖先生から岐阜大学の杉森弘幸先生へ学校体育専門委員会の委員長の引継ぎがされました。本研究集会の懇親会において佐藤靖先生の在任18年間の慰労会も行われました。

佐藤靖先生は学校体育におけるハンドボール教材の普及・発展にご尽力され、今日、小学校の学習指導要領の内容の取扱いに「ハンドボール」の文言があり、小学校の授業にてゴール型教材としてハンドボールを行うことができる一要因は、これまで佐藤靖先生を中心としてハンドボール教材の授業実践をまとめ、その有効性を検討し、文部科学省へ地道に報告した経緯があります。18年間、お疲れ様でした。

最後に本研究集会を開催するにあたり、猛暑のなか、ご尽力していただいた鹿児島県ハンドボール協会の皆様、霧島市ハンドボール協会の皆様、また関係者の方々に感謝を申し上げげつつ、ご報告とさせていただきます。


授業提案の様子①


実技研修の様子


授業提案の様子②



看板

スコアールーム①

第18回全日本ビーチハンドボール選手権大会

開催期日：2016年8月27日(土)～28日(日)
会　　場：神戸市・舞子浜海岸東浜緑地「アジュール舞子」特設コート

【男　子】

▼Aブロック

ボンチフェローズ 2（25 3、25－6）0 明南県商連合
東海Weeds! 2（12－10、18－7）0 明南県商連合
ボンチフェローズ 2（16－11、11－6）0 東海Weeds!

▼Bブロック

ABG2016 2（24－10、24－4）0 LALLAPALLOOZA
LALLAPALLOOZA 2（15－7、19－10）0 県立明石清水高校
ABG2016 2（20－3、31－5）0 県立明石清水高校

▼準決勝

ボンチフェローズ 2（14－11、15 7）0 LALLAPALLOOZA
ABG2016 2（20－4、21－4）0 東海Weeds!

▼3位決定戦

LALLAPALLOOZA 2（17－3、11－12、9－8）1 東海Weeds!

▼決　勝

ABG2016 2（18－12、9－8）0 ボンチフェローズ

【女　子】

ABG2016 2（19－6、12－7）0 S"TEG
SHINE 2（15－8、16－2）0 県立明石清水高校
ABG2016 2（16－6、14－6）0 ハミングバード
SHINE 2（9－7、8－14、5－1）1 S"TEG
ハミングバード 2（12－6、12－11）0 県立明石清水高校
ハミングバード 2（7－6、13－11）0 S"TEG
ABG2016 2（23－6、15－2）0 県立明石清水高校
SHINE 2（9－13、12－4、6－3）1 ハミングバード
S"TEG 2（14－10、12－3）0 県立明石清水高校
ABG2016 2（18－7、19－18）0 SHINE

最終順位

ABG2016
SHINE
ハミングバード
S"TEG
県立明石清水高校

スコアールーム②

第45回全国中学校ハンドボール大会

開催期日：2016年8月21日(日)～24日(水)
会　　場：石川県・いしかわ総合スポーツセンター

【男　子】

▼1回戦

香川第一（香川）25（11－10、8－9）24 植田（愛知）
（2－4 延長 4－1）
甲田（広島）34（11－14、17－14）33 羽津（三重）
（2－2 延長 4－3）
氷見南部（富山）34（17－9、17－15）24 玉名（熊本）
住吉第一（大阪）24（14－9、10－12）21 松崎（福岡）

▼2回戦

氷見北部（富山）35（18－12、17－17）29 香川第一（香川）
大住（京都）24（11－8、13－13）21 東久留米西（東京）
小松南部（石川）23（8－10、15－7）17 厚別（北海道）
神森（沖縄）26（15－9、11－11）20 甲田（広島）
滝ノ水（愛知）25（12－10、13－11）21 氷見南部（富山）
大体大浪商（大阪）36（16－11、20－16）27 戸塚西（埼玉）
けやき台（茨城）29（14－8、15－10）18 矢巾（岩手）
岩国（山口）19（10－10、9 7）17 住吉第一（大阪）

▼準々決勝

氷見北部 34（17－9、17－16）25 大住
小松南部 19（10－10、9－8）18 神森
滝ノ水 24（13－8、11－11）19 大体大浪商
けやき台 23（9－12、14－8）20 岩国

▼準決勝

氷見北部 30（13－6、17－6）12 小松南部
滝ノ水 20（6－7、14－7）14 けやき台

▼決　勝

氷見北部 28（13－6、15－8）14 滝ノ水

【女　子】

▼1回戦

岩崎（神奈川）24（14－12、10－11）23 田辺（京都）
総社西（岡山）19（9－6、8－11）18 高南（大阪）
（0－0 延長 2－1）
武蔵村山第五（東京）32（15－11、17－14）25 御幸（石川）
神森（沖縄）13（6－4、7－8）12 菰野（三重）

▼2回戦

岩崎（神奈川）20（10－4、10－6）10 今治東（愛媛）
鶴城（熊本）34（21－8、13－11）19 桔梗（北海道）
芦城（石川）28（18－3、10－11）14 東根第一（山形）
西笹川（三重）18（8－10、10－6）16 総社西（岡山）
住吉（山口）26（15－11、11－13）24 武蔵村山第五（東京）
松橋（熊本）17（6－2、11－6）8 桜田（愛知）
東久留米西（東京）26（14－13、12－12）25 氷見十三（富山）
望海（兵庫）17（8－10、9－4）14 神森（沖縄）

▼準々決勝

鶴城 23（12－9、11－11）20 岩崎
芦城 29（18－6、11－15）21 西笹川
松橋 27（15－9、12－12）21 住吉
東久留米西 22（10－8、12－13）21 望海

▼準決勝

芦城 26（11－9、10－12）23 鶴城
（2－1 延長 3－1）
松橋 33（18－12、15－9）21 東久留米西

▼決勝

松橋 19（7－6、12－4）10 芦城

スコアルーム③

高松宮記念杯第6回全日本社会人ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年8月31日(水)～9月4日(日)
会　　場：山形県・東根市民体育館、東根市中央運動公園アリーナ

【男　子】

▼1回戦

琉球コラソン	37	(20－13、17－9)	22	HONDA
湧永製薬	35	(18－8、17－5)	13	トヨタ自動車
トヨタ紡織九州	41	(18－7、23－12)	19	HC岩手
豊田合成	34	(19－14、15－7)	21	北陸電力

▼2回戦

大崎電気	33	(15－16、18－14)	30	琉球コラソン
トヨタ車体	34	(15－15、19－16)	31	豊田合成
大同特殊鋼	35	(17－9、18－19)	28	トヨタ紡織九州
トヨタ自動車東日本	20	(13－6、7－13)	19	湧永製薬

▼9－12位決定トーナメント

HONDA	34	(19－4、15－14)	18	トヨタ自動車
北陸電力	34	(14－13、20－18)	31	HC岩手

▼11－12位決定戦

HC岩手	36	(18－13、18－15)	28	トヨタ自動車

▼9－10位決定戦

北陸電力	35	(18－11、17－12)	23	HONDA

▼5－8位決定トーナメント

琉球コラソン	31	(14－11、17－11)	22	湧永製薬
豊田合成	34	(15－11、19－11)	22	トヨタ紡織九州

▼7－8位決定戦

トヨタ紡織九州	30	(18－13、12－12)	25	湧永製薬

▼5－6位決定戦

豊田合成	31	(13－11、14－16) 4－1 延長 0－2	30	琉球コラソン

▼決勝リーグ

トヨタ車体	26	(16－10、10－14)	24	大同特殊鋼
トヨタ車体	30	(15－11、15－13)	24	大崎電気
大同特殊鋼	24	(9－9、15－13)	22	大崎電気
大同特殊鋼	23	(12－10、11－9)	19	トヨタ自動車東日本
大崎電気	30	(18－10、12－13)	23	トヨタ自動車東日本
トヨタ自動車東日本	26	(13－11、13－14)	25	トヨタ車体

【最終順位】
①トヨタ車体②大同特殊鋼③大崎電気④トヨタ自動車東日本⑤豊田合成⑥琉球コラソン⑦トヨタ紡織九州⑧湧永製薬⑨北陸電力⑩HONDA ⑪ HC 岩手⑫トヨタ自動車
※1位－2位、3位―4位は総得失点差による

【女　子】

▼1回戦

三重バイオレットアイリス	26	(10－13、16－8)	21	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
オムロン	25	(13－13、12－7)	20	大阪ラヴィッツ
広島メイプルレッズ	29	(16－11、13－12)	23	香川銀行T、H

▼5－7位決定リーグ

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	33	(17－12、16－11)	23	大阪ラヴィッツ
香川銀行T・H	28	(13－14、15－13)	27	大阪ラヴィッツ
香川銀行T・H	25	(11－12、14－13)	25	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング

▼決勝リーグ

北國銀行	27	(13－10、14－8)	18	広島メイプルレッズ
北國銀行	29	(13－13、16－6)	19	オムロン
北國銀行	25	(15－11、10－12)	23	三重バイオレットアイリス
広島メイプルレッズ	20	(10－9、10－9)	18	三重バイオレットアイリス
広島メイプルレッズ	20	(10－11、10－9)	20	オムロン
三重バイオレットアイリス	24	(11－10、13－12)	22	オムロン

【最終順位】
①北國銀行②広島メイプルレッズ③三重バイオレットアイリス④オムロン⑤ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング⑥香川銀行T・H⑦大阪ラヴィッツ
※5位―6位は総得失点差による

スコアルーム④

第24回全日本マスターズハンドボール大会

開催期日：2016年8月19日(金)～21日(日)
会　　場：愛知県・豊橋市総合体育館（スカイホール）ほか

【男子順位決定型】

■青グループ

▼1回戦

蔵前如水会T	14－12	HC群馬サファリ
安威川クラブ	13－7	待兼シニア

▼2回戦

大阪330HC	19－10	蔵前如水会T
G・G北海道	13－9	白石クラブマスターズ
蒲郡クラブ	24－13	静岡マスターズ
GG'S	14－10	安威川クラブ

▼準決勝

大阪330HC	12－8	G・G北海道
GG'S	19－11	蒲郡クラブ

▼3位決定戦

G・G北海道	15－8	蒲郡クラブ

▼決　勝

大阪330HC	17－9	GG'S

■赤グループ

▼1回戦

1MPAL with T	20－6	信州ノーウェーブ
小松オールウェイズ	15－8	HC金津

▼2回戦

1MPAL with T	14－7	GHBP ARES
Shonan Seagulls	17－12	讃岐マスターズ
拝島ブルーウッドA	11－8	オールドフェイス
下松クラブアダルツ	12－8	小松オールウェイズ

▼準決勝

1MPAL with T	12－8	Shonan Seagulls
下松クラブアダルツ	13－8	拝島ブルーウッドA

▼3位決定戦

Shonan Seagulls	11－9	拝島ブルーウッドA

▼決　勝

1MPAL with T	15－8	下松クラブアダルツ

【女子順位決定型】

▼1回戦

富山エンジェルス	12－6	NEWフェース

▼2回戦

MLN39	15－9	Gabbiano☆DX
微炭酸（BTS）	16－6	富山エンジェルス

▼決　勝

微炭酸（BTS）	15－10	MLN39

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【茨城】宮川　陽、宮川なつめ【東京】田島雅史、土田　健、平賀とみ子【静岡】永井裕之、安野順一【愛知】田中基明、小林美夏、城山秀美、岡山尚司、岡山美恵子、牧野千別、山田美佐子、光岡陽子、村松真帆【大阪】宮﨑　寛
【兵庫】高祖加奈子【和歌山】大橋吉次【広島】青戸克好

【11月の行事予定】

【会議】
11月12日(土)　常務理事会

【大会】
11月12日(土)～13日(日)
第14回日本車椅子競技大会
……………（宮城県・仙台市和泉総合運動場体育館）
11月19日(土)～23日(水)
高松宮記念杯男子59回女子52回全日本学生選手権
………………………………（徳島県・鳴門市ほか）

HAND BALL CONTENTS Nov.

次号12月号（No.564）は12月1日発行予定です。





代表取締役　青木 理恵

YURIKA ROSE







私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開！4年後の2020年『東京オリンピック』、この4年間でどれだけ成長できるか！が楽しみです。

弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　http://yurika-co.jp/



（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五六三号

平成二十八年十月二十六日印刷

平成二十八年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一

電話　代表〇三ー三四八一ー二三六一

振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人　蒲生晴明

定価　年間三二〇〇円